

山百合が好きだった



水本典子を偲んで



次女と二人で 京都へ出かけました
一番楽しいころだったでしょうか (2004. 7. 13)

自宅の庭で
子どもたちと

(1986 頃)



夫婦でカラオケを楽しむ日も



結婚 20 周年で北海道へ
(1991. 12. 8 ~ 10)



孫と一緒に おぢば参拝
(2000. 9. 18)



仲良きことは美しき哉 (2002. 3. 22)



母の実家で祖父母といとこたち
(右端は本人 隣は兄)



下市分教会で結婚式 (1971. 7. 11)

中学生 3 年生の頃



檀原神宮へ遠足
保育園時代



会社の旅行で伊豆へ (1969)



母と一緒に月ヶ瀬梅林へ
(1997. 3. 18)



お世話になった叔母さんたちと
(2000. 9. 24)



大教会創立 110 周年記念祭 新興分教会はギョウザ店を担当 (2003. 4. 6)



支部婦人会の奥様たち 教務支庁ひのきしんで (2003. 9. 27)

序にかえて

「笑顔で明るく前向きに」

妻・典子が平成十八年九月二十六日午後三時三十分、五十四歳で出直し早や一年となります。

縁があつておぢばで知り合い、結婚して三十五年。私の会社員時代は、奈良市、京都府舞鶴市、大阪府寝屋川市と転勤のため住所が転々となりましたが、長女、長男をお与えいただき、それなりに楽しい時期を過ごしました。

昭和五十三年末、会社員として順風満帆の頃、新興分教会四代会長だった父・水本良太郎が食道癌で余命三ヶ月と診断されました。典子は「親孝行とは、親が一番してほしいと願っていることをさせていただくこと」と、一途な思いで父の看病の

ため、教会生活を嫌がる私を大阪の社宅に残し、さつさと子どもを連れて教会へ帰ってしまいました。父親に対し親孝心に徹してくれる妻の姿に感化され、会社員生活に終止符を打ち、共に道一条通ることを決心しました。

その年の十一月二十日、父が六十四歳で出直し、翌昭和五十五年一月二十六日、私は五代会長のお許しを戴き、典子は会長夫人として、サラリーマン生活とは違い、子どもを抱え、無い無いづくしの一転した暮らしに、預かった幾人かの人たちに食べ物を工面するだけでも大変であり、正に苦労のどん底の中、上級教会の親心やお仕込みをいただき、教友の励まし、それに実家の母、兄の陰の支えもあつて、明るく勇んでこの道を通ってくれました。そんな道中に、望まれるまま、下市小学校臨時給食調理員をつとめたり、下市町のホームヘルパーとして介護の道を歩みました。

また、実母の影響を受けて、子どもの頃から花が大好きで、娘時代に容真御流の生け花を学び、また我が家の小さな庭には四季折々の花を咲かせて楽しんでいました。洋裁も得意で、子どもたちが小さい頃には、胸にイニシャルを入れたオリジナルの洋服を作って着せては喜んでいました。少しの布でも粗末にせず、リフォームしたり、手芸品を作って皆さんにもらっていただけは喜んでいました。また、知

られていないことでは、ロツテガーナチョコレートが好きだったこと。土鈴が大好きで旅先では土鈴を買い求めるのが習慣であったこと。この他にも手話を学んだり、イラストを描いたり、能を鑑賞したりと何にでも楽しみを求め多趣味な女性でした。新興分教会三代会長をつとめた母・マツエが八十五歳を過ぎたころより軽い認知症となり、五年前、平成十四年十二月十三日、八十八歳で出直すまで母の介護に尽くしてくれて側で見えていてもとても微笑ましい母子でした。

母を見送り、いよいよこれから教会のためにも自分のためにも楽しみを求めて歩み出した矢先、平成十七年二月ごろ乳癌を発症、以来抗がん剤、手術、放射線治療を続ける中に、昨年一月、教祖百二十年祭を迎え、からだも元気に回復したかに見えました。四月再発となり、再び抗がん剤治療をしていましたが、八月二十八日より、憩いの家へ再入院となりました。

癌と診断されてからはいつも心をよぎる出直しの覚悟。「からだは神のかりもの。今世は、前世からの持ち越しているいんねんも全部出してもろうて、来世は元気で丈夫なからだをお借りして生まれてくるからね。実母には親不孝してしまうけど、四人のいい子どもたちに恵まれて私は幸せやったわ」と私に語っていました。

今一度元気になり戻って来てくれるものと家族が心一つになって祈り続けたのですが残念ながらまだまだ働き盛りの若さで出直しとなりました。あの世で母が寂しくなつて典子と呼んだのでしょうか。それならもう少し先にしてくれたら良かったのに……。いづれ聞いてみたいと思っています。

典子は、山の中で風に揺られ見え隠れしながら自生している清楚で可憐な山百合が大好きでした。彼女の一生も、たとえ命短くても、誰に見つけてもらえなくても、懸命に咲いた山百合のようであつたのでしょうか。

彼女を知る人は言ってくれます。「典子さんは、理知的で、おとなしく、控えめな人で、先頭に立って人々を引っ張っていくタイプではなく、むしろ、歩き疲れた人たちと手を取り励ましながら一緒に歩む人との印象が強い……。」などと。

大教会の会報「大和（やまと）」に、よしのさくら、山野もみじなどのペンネームで二十編のエッセーを残しています。今となつては彼女の人となりを知る唯一のものになつてしまいました。

本日、妻・典子の一年祭をつとめるこの機に、彼女が書いたこれらのものを整理し、親しかつた方々に想い出話を添えていただいて、あまりにも早く出直した我妻がこ

の世に生きた証にこの小冊子を残すことにしました。

この綴りは、多くの人に読んでもらうためのものではありません。ただ子どもや孫たちに、いつも笑顔で明るくて前向きに一生を送つた典子おばあちゃんがいたということを伝え、また、このおばあちゃんにはこんな素晴らしい友人、知人がいたことを知ってもらうために、そして、後日、我が家のいんねんを語る素材となり、更なる陽気ぐらしに近づける基になつてくれることを願つてのものです。

最後に、妻・典子との想い出話をお寄せくださった方々に、また、生前中、お世話になつた大勢の方々に、心から感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成十九年九月九日

目次

■序にかえて■

笑顔で明るく前向きに……………水本治男

■想い出集■

ありがとう 典子さん……………南満里子 2

中身の濃い人生でしたね……………谷昭範 4

節ちゃん 来てくれたん……………北平節 6

水本典子さんを偲んで……………江幡光子 8

奥さんとの思い出……………椿井理治 10

奥さんが見ていてくださる……………谷きせよ 12

宝物を失ったような……………島幸子 14

想い出がいっぱい……………鎌田真智子 16

奥さん、お世話になりました……………小林喜子 18

お酒落で、器用で、お花が大好きで……………谷登紀子 20

母親代わりと慕ってました……………椿井理恵 24

心に温もりを頂いて 島 美千子 26

事実を信じたくない 前 安世 28

水本さんへ 坂口光恵 30

貝の根付けと手提げ袋 飯田みち代 32

おやつの味 井村善伸 34

カラオケにもう一度 倉本明美 36

典ちゃん、有難う 坂上雄亘 38

すみだの花火 神崎寛美 40

貴女の香り 島 徳子 42

■ 遺稿集 ■

青年会女子青年総会感話 45

天理時報掲載 53

天理時報「拝啓 おやさま」投稿文 54

プレゼント 56

四十の手習い 57

一大イベント 59

双六遊び	84	春がきた	71
笑顔美人	82	美しい手	70
熟年夫婦	81	小さな立ち雛	68
自分育てをしよう	79	手紙	67
父子物語	78	すばらしい贈り物	65
待つ	76	思い出をありがとう	64
母の温もり	74	庭の花のように	62
落とし穴	73	ペーパードライバー（その後）	60

朝は元気よく 85

あんこの味 87

をびやゆるし 89

節から芽が出る 90

■ 病気録 ■ 93

■ プロフィール ■ 144

☆ 目次及び本文のご芳名には敬称を略させていただきます

想い出集

典子と親しくしてくださった方々が想い出話や追悼文
を寄せてくださいました。

掲載は、原稿を頂戴した順とさせていただきます。

「ありがとう 典子さん」

南 満里子

(下市町)

賢く美しく朗らかで、いつも輝いていた典子さんとの出会いは、私の生き方にも大きな影響を与えてくれました。

数々の思い出、中でも最も心に残っているのは、平成十一年の秋、芝能に誘っていただいたことです。

春日の杜を背景に緑が映える芝生の上で、月の光を受けながら繰り広げられる壮嚴の舞は、私たちを幽玄の世界へと引き入れてくれました。

その時の感動は、今までに味わったことのない凄いもので体中が震えるのを覚えました。

以来、毎年私たちは二人でこの古都奈良の秋を彩る年中行事を楽しみに、奈良へ

と車を走らせたものでした。

未知の世界へいざなってくれた典子さん、いい思い出をありがとう。

あなたとお別れしてしまってから、私一人では能の鑑賞に行く気持にはなれませんが。

本当にありがとう、いつまでもあなたのことは忘れません。



「中身の濃い人生でしたね」

谷 昭 範

(五條市)

教会長夫人として、また四人の子供達の母親として、さらに働く女性として、休む間もないほどに頑張っておられた典子さんに、私はいつも感心していました。

そんな典子さんの身体に、重大な病気が巣くっていると聞かされたとき、誰もが大変なショックを受けたものでした。それでも、その病気に打ち勝ってくれるものと信じていました。

しかし、現実には冷酷非情なものでした。典子さんの病状が深刻なものになって、私達家族が病室を訪れた時、二人の御子達が健気にも明るく私達に接してくれた事に、その心情を察して私の心は激しく痛みました。

典子さんの早過ぎる死は、「一体、なぜ？」との気持ちが心にわだかまって、今もっ

てスナナリとは受け入れられない位です。しかし、典子さんの死が私達に教えてくれるものは、多々あるような気がします。私達は典子さんの一生から何かを学び、今後の人生に生かしていけば良いのだと思います。

それは、典子さんのガンバリズムかもしれないし、何事にも積極的に取り組む姿勢かもしれないし、あるいは一つの道に邁進する一途な思いかもしれません。

もう二十五年も前、私の母が憩の家に入院した時、献身的な世話取りをして頂いたことは、決して忘れる事はありません。

また、私達の結婚式の日、まるで自分の事のように嬉しそうな笑顔をみせながら、媒酌人夫妻としての大役を果たして頂いた事。

それに、日ごろは「アキノリさん、アキノリさん！」と親しく接して頂いた事。

いろいろな思い出を遺して頂いた事に、御礼を言いたいと思います。

この頃は、典子さんの早過ぎる死を残念に思う一方で、いや、典子さんは中身の濃い人生を送り、自分の一生を立派に完結したのではないかとも思うのです。

典子さん！一所懸命に生きられて、また必死で病氣と闘われて、本当にお疲れ様でした。これからは、ゆつくりとお休みください。

「みさお節ちゃん、来てくれたん」

北平 節

(下市町)

典子さん、ご無沙汰しています。

新興の教会に行くと「やあ！節ちゃん来てくれたん。上がってや」という貴女の声が裏の花壇の手入れをしながら、手作りのエプロンをして、顔を見せてくれて、「ちよつと待っててや」と言って手早くお茶とお菓子を、それに必ず一輪の花が添えられて貴女はやさしく出迎えてくれました。

あ、そうそう、二人で京都へ行きましたネ。お寺のあちこちをお母さんが子どもの手を繋ぐように歩いてくれ、細かく説明してくれましたネ。そうして、「今日着る服は、直緒が買ってくれたんよ」と、めっちゃうれしそうでした。又、三年程前、私が何度目かの修養科へ行つたとき、わざわざ面会に来てくれて「節ちゃんいない

と淋しいよ。早よ帰ってきてや」と、私の顔を両手で包んでくれました。

それからこんなこともありました。二年前のお雛さまのころ、手づくり雛を皆んなに教えてくれ、大教会の親奥様のベッドの側に飾ってくだされて、奥様も大変喜んでくださいました。

貴女の手先の器用な女性らしさが、私には本当に羨ましい限りです。

典子さん、いつ訪ねて行っても、手袋をつけ、手作りのエプロンをかけ、裏庭から「やあ！節ちゃん、来てくれたん」と顔を出してくれそうです。

本当にご恩になりっぱなしで、何のお返しもできずごめんネ。たくさんのお思い出をありがとう。



「水本典子さんを偲んで」

江幡 光子

(大和高田市)

水本さんを思い出す時、彼女（失礼）はいつも笑っています。あの独特の、喉の奥で「グッグッ…」という笑い方が。

初めてお会いしたのは三年前の六月。高田支部主任として、教区例会に緊張して出席した時です。同じ母親講座の担当となり、飯田みち代さんという共通の友人もいた事で、すぐに仲良くなって、一緒の席で昼食をするようになりました。母親講座開催に当たって、何度も教務支庁で打ち合わせを重ねていくうちに、家族の話も打ち明けるようになりました。

そんな時に、水本さんの身上についても打ち明けられ、驚きましたが、意外に、あっさりと話されたので、病氣と付き合いながらボチボチやつていかれるのだと受けと

めていました。

いつも例会の前日に「明日、来れそう?」「抗癌剤治療したから休ませてもらうわ」なんてメールで予定を確認していました。

ある例会の昼食の時は、「癌なんて思われへんほど食欲あるねん、全然痩せへんやろ?」って笑って、カレーをペロッと食べたりもして一緒に食べている人たちと大笑いしました。

でも、去年の春先だったか、少し不安な顔の時もあり、「もう、思いつきり、好きなことしようと思うねん」と話された時や、折にふれ、「何で私やの?何でやろ?」と言われた時もありました。病氣に対する恐怖が突然やつてくる時もあったのでしよう。でも、私は話を聞く事しかできませんでした。

水本さんは、私にもいろんな物を残してくださいました。私が読書好きだと知って、手作りの「しおり」をくださったたり、オバチャンらしく「飴」を持ち歩いていると古布で巾着袋（ダイヤ?付き）を縫って「江幡さん、これに飴入れたら?」といってくださいました。

今年の雛まつりには、我が家のリビングに水本さん作のかわいい雛人形を飾りま

した。それらのものは皆、温かみのある作品ばかりです。

二年足らずの、本当に短いお付き合いでしたが、水本さんと出会えたのは、親神様、教祖様の思いがあつての事と思わせて頂いています。

典子さん、楽しい思い出、ありがとうございます。

「奥さんとの思い出」

椿井 理治

(下市町)

奥さんとは、新興分教会の中でも両親共々古いお付き合いになります。教会の月次祭、上級の月次祭や行事、支部の活動などなど。そんな際には、苦しい顔、辛そうな顔など見たことがなく、いつも笑顔で接してくれていました。

私が本部の布教の家（石川寮）へ入寮していた秋頃、外から帰った私に荷物が届いていました。差出人は奥さんからでした。中には冬物のジャンパーが入っていました。街で同じような物を見ると、そこそこの値するものでした。すぐにお礼の電話をしなければならぬのに怠ってしまいました。卒寮してからもうとうとうお礼も言わないままでした。奥さんは、私がそのジャンパーを着けていても何もおっしゃらずにいつもニコニコ笑っておられるだけでした。

奥さんが身上のため、昨年八月入院された時には、「後、一週間の命」と下市の会長さんから聞かされ、丁度その頃に、母が変な夢を見たそうです。黄色いエプロン姿の奥さんが、「照ちゃん、ありがとう」と言われたそうです。新興がその月の上級教会の炊事当番に当たっていて、奥さんは気になっておられたみたいで母に礼を言いに来られたのではないかと母は申ししていました。夢枕に出るとは良い知らせではないと聞いていたので、母と「何もなかったらいいのになあ」と話していました。下市部内の奥さん方をお願いづとめがつとめられ、私も一緒につとめさせていただきましたが、その甲斐もなく出直されました。

私は出直された二日前に、病院へお見舞いに行かせていただいたとき眠っておら

れたので、下市の奥さんから付添の方々への差し入れを渡して帰ってきました。「なぜ、あの時、おさづけを取り次いでこなかったのか」と悔やまれてなりません。

教会で笑顔の奥さんの遺影を見る度に、いろいろな事が蘇ってきます。人生八十年といわれる今の時代に、奥さんの出直しはあまりにも早過ぎると思います。まだまだ奥さんにはお教えいただかねばならない事ばかりだったのに。

「奥さんが見ていてくださる」

谷 きせよ

(五條市)

出直されたなんてまだ信じられない気持ちでいっぱいです。悔しくて残念で残念

でたまりません。

私と奥さんとのお付き合いは、新興分教会の一ようぼくである谷昭範さんとの結婚から始まりました。約二十年近くになります。遠い山口市から五條市へ嫁に来た私を妹か娘のようにいつもやさしく育ててくださいました。一緒にいるその空間は温かくとても居心地のいいものでした。

最近の一番の思い出は、奥さんに付き添っていただいて、娘の有梨花がおさづけの理を拝戴させていただいたことです。そして、教祖殿にて、拝戴したすぐのほやはやおさづけを奥さんに取り次がせていただきました。奥さんは、ニコニコして「これで治していただけるわ。ありがとう。」と言って、とても喜んでいただいた顔、今でも忘れられません。

奥さんから教わったたくさんの方々の事柄を思い返しながら、いつもどこかで奥さんが見ていてくださると信じてこれからも勇んでつとめさせていただきます。

ありがとうございました。

「宝物を失ったような」

島 幸子

(桜井市)

典子さん、いくら考えても、なんでこんなに早く出直されたのか。大きな宝物を失ったような残念な思いで一杯です。

五月にはテッセンの花がきれいに咲いてくれました。これは典子さんに一枝頂いたのを三つに切り差し芽をした花で、咲く頃にはいつもやさしい貴女のことを思い出してお礼を云っています。

また、夏になれば簡単な涼しい服が欲しいので、神殿当番の空いた時間に手際よく裁断して下さいましたネ。夏になってその服を着る時は、典子さんの姿を想い浮かべています。

又、神殿当番の掃除が終わった時には、蒸しパンをおやつに持って来て下さいま

した。私も蒸しパンが好きですので、典子さんはプリントして教えてくれました。時々想い出して当番の人におやつを作って食べて貰っています。

貴女は家庭の主婦として本当に良く出来た方でした。教会の上にも家庭の上にも細やかな心くばりをして育てて下さいました。

又、西吉野支部支部主任として婦人会の支部活動の上にもいろいろと努力して下さいました。本当にありがとうございました。

いんねんの上で、早く出直されましたが、どうぞ早くこの世に帰って来て下さり、お道の上に、教会の上に、家庭の上にお働き下さいますようお願い申し上げます。さようなら。



「想い出がいっぱい」

鎌田真智子

(大淀町)

いつもにこにこ優しく笑っていた典子さん。思わぬ大病に苦しんでいた中でもきつと助けて頂くと信じて頑張っていたのに。こんなに早く出直してしまうなんて夢にも思いませんでした。

花の大好きな典子さん。手先の器用な典子さん。何でも手早く判断して物事を進めていつてくれた典子さん。あなたとの想い出はいっぱいあります。

何年か前、コスモスが大好きだと言った私に、自分の家の庭に生えたピンクのコスモスの苗を届けてくれました。それが毎年、美しい花を咲かせ三株から十株になり、今では庭いっぱいに広がって近所の人たちも「きれいネ、きれいネ」と声をかけて通っ

て行つて楽しませてくれます。今年もあちこちにコスモスの芽が生えています。きつと秋には、いっぱいのコスモスの花で楽しませてくれる事でしょう。

又、私の四人の女の子が生まれ、おひな様の旬にひな人形も買つてやれないと言つていたら、見事な卵の殻の顔で十二単の着物も残り布で縫つて着せてくれたおひな様を届けてくれ、子供達もどんなに喜んだ事か。毎年、毎年、二十五年位になるでしょうか、三月の節句が来たら玄関先に出して飾らせて頂きました。子供達も成人してそれぞれ嫁ぎましたが、とうとう卵の顔がつぶれてしまい、去年の二月、典子さんは病氣の中、支部婦人会例会に私の教会へ来て下さり、又、新しいおひな様を作ってくれたのに……。卵の顔がつぶれたのは典子さんの出直しを知らすかのように……。

典子さんは帰らぬ人となつてしまいました。私もしばらくはぼっかりと心の中に穴が空いたようでさみしいでしたが、又、元気な身体で一日も早く生まれ変わって来てくれる事を信じて私も頑張りたいと思っています。

いろいろありがとう。

「奥さん、お世話になりました」

小林 喜子

(大淀町)

奥さんとの出会いは、私の三人の娘たちが夏のこどもおぢばがえりに参加させて頂いたり、大教会の鼓笛隊に入れて頂いたりでお世話になったことからでした。

次女は天理高校に学び、今では教会に嫁ぎ、行き届かないながらも会長夫人として頑張っています。「奥さんのような人になりたい」と常々申しております。

私が病氣になった時に、奥さんにおさづけを取り次いで頂いたことがありました。奥さんの手がとても温かくて、気持ちのスーツとして、何ともいえない良い気分になったことを覚えています。

奥さんに大阪のフェスティバルホールへ「おうた演奏会」に連れて行つて頂いたこと。そして、その帰りに天王寺美術館へ寄ったこと、また、京都、神戸などへも

一緒に遊びに行きましたね。楽しい思い出がたくさん残っています。それに奥さんの上手なカラオケを聞くのも楽しみでした。

公私共に大変お世話になりました。いつでもやさしく接してくださいました。感謝しています。ありがとうございました。



「お洒落で、器用で、お花が大好きで…」

谷 登 紀 子

（大淀町）

早いもので、典子さんとお別れしてから、もう一年近くになりました。あんなにお若くてお元気でしたのに本当に残念でなりません。

典子さんは教会の奥様としていつも忙しく働いておられ、どんな時でも明るく前向きに一生懸命頑張っておられました。

そんな典子さんに初めてお会いしたのは、二十五年くらい前、母が入院していた天理病院の病室でした。当時、六十過ぎの母は大手術の直後で、当分二十四時間付き添いをするようにと病院から言われていたのです。今のように介護が進んでおらず、弟と二人で頑張るしかないという覚悟をしておりましたところ、典子さんも快く加わって下さるとのことでした。

「水本です。どうぞよろしく」と動きやすい、白い綿のブラウスに紺のキュロットスカート姿で、私に挨拶をして下さいました。清楚で生き生きとしておられて、なんて感じの良い方なのだろうと思ったのを今でもはつきりと覚えています。

典子さんと病院の付き添いを交代する朝、いつも母は美しい顔をして、笑うと歯がとてもきれいで…。汚い所は全部お湯で拭いて下さり、入れ歯も洗って下さり、爪切りまでして下さいました。又、机の引き出しには、一日の母の様子を事細かにメモをして下さっていました。私は頭がさがりました。皆さんにお世話になりながら、母も長い入院生活を終え退院の日を迎えました。

ここからは、昔、母が嬉しそうに何度も私に話してくれた事なのですが、久し振りに我が家に戻って来た母は、パツと花が咲いたような明るい部屋にアツと大声をあげたそうです。

沢山の色紙を短冊に切り、輪につなぎ合わされたループが部屋中に美しく垂れ下り、まるで舞台のようだったそうです。中央には大きな字で「谷さんご退院おめでとうございます」と書かれた白い紙が貼り付けられていたそうです。それは典子さん母子が何日もかけて作って下さった母への退院の贈り物だったのです。

典子さんの素晴らしいアイデアと、自分の事を気遣ってくれている大きな愛情に感謝の涙が止まらなかったそうです。

それから後も、朝から小さなお子さんを背負って、教会から歩いて何度も見舞いに来て下さったそうです。お掃除、お洗濯、そして昼食も作って下さり（ご自分は手弁当だったそうです）夕方まで、母の話相手をして下さったそうです。退院はしたけれども、何となく不安な気持ちでいた母には、どれほど心丈夫だったことでしょう。

私も、母から聞いたこの話を何人もの人に聞いていただきました。そして今、こんなやさしい女性が身近に居て下さったことを本当に幸せだったと思います。

お洒落で、器用で、お花が大好きで、お部屋にはいつも季節の物がセンス良く飾られていて…。そんな貴女が大好きでした。もっともっと長い年月一緒に生きて行きたかったのに…。

ながいお付き合いでしたから、思い出の品が沢山あります。又、ゆっくり、ひとつ、

ひとつ眺めながら、ひととき、楽しかったあの頃に戻れたらと思っております。

典子さん、長い間お付き合い下さり、お世話になりました。本当に有難うございました。

これからも千の風になって私達を見守っていて下さい。



「母親代わりと慕ってました」

椿井 理恵

(下市町)

私と奥さんと初めて出会ったのは、十六年前でした。まだ結婚する前で、新興分教会のようぼくだった主人と一緒に本部に参拝に行った時でした。それから毎月、教会の月次祭に参拝に行かせて頂くようになり、一年後に会長さんご夫妻に仲人をお願いして、教会で結婚式を挙げて頂きました。前夜も教会で泊めて頂きました。

また、奥さんは、私の出産の度に病院へ来てくださり、いつも嬉しそうに自分の子供か孫が産まれたかのようにとても喜んでくださいました。

九年前、私の実家の母が出直した時は、言葉に言い表せないほどお世話になりました。当時は子供が三人で、一番上が小学校一年生、中の子と下の子は、保育所へ通っていました。母の急死を聞いて、慌てている私を支えてくださり、「何かの足しにし

て」と、そっとお金を渡してくださいました。お葬式も九州・佐世保の実家まで夜行バスやJRを乗り継いで遠い所なのにわざわざ参列してくださいました。

その後は、母が亡くなり寂しくなった分、私は奥さんを母のように慕ってきました。奥さんは、母親代わりになって色々な事を教えてくださいました。

どんな事も器用にこなして、笑顔が絶えず、何事にも前向きな奥さんでした。そんな奥さんが大好きで尊敬していました。子供達も奥さんが大好きでした。

奥さんが亡くなった事は、今でも信じたくないのですが…。私は奥さんとお会ってうれしかったし、楽しかったです。

奥さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



「心に温もりを頂いて」

島 美千子

(五條市)

私と典子奥さんとのお付き合いは、私がお嫁に来てからですので、十数年というほんの短い時であります。

他にたくさんの方々が、私以上の思い出もある事と存じますが、私自身、たくさんのお心を頂いた典子奥さんにお礼の気持ちを込めて、筆を執らせて頂きます。

典子奥さんには、出会う度に、いつも優しく、明るい笑顔でお声をおかけ頂きました。何事につけご堪能な奥さんでしたので、側にいて色々と勉強させて頂く事も多かった様に思います。何かさせて頂くと、その度に、お礼にと言って、手作りのお菓子類や、小物類を頂きました。そして必ず一言のお手紙を添えて下さっており

ました。その何気ない一言のお手紙に、心を和ませる様な、何とも言えない温もりが感じられて、私はそのお手紙でいつも心が温かくなり優しい気持ちに成らせて頂きました。

典子奥さんの様に、私自身も女性として、おたすけ人として、いつも相手の心に「温もり」を与えてあげられる様な日々を通して頂きたいと存じます。

典子奥さん、いつも心におかけ頂いて、可愛がって頂き、本当にありがとうございました。



「事実を信じたくない」

前 安世

(大淀町)

こんなに早くにお別れする事になるとは夢にも思っていないませんでした。また、この事実を信じたくないと思うています。だって私たちは二十六年生まれですものね。お互いに幼い頃の遊び方や実家の田舎の事などよく夢中になってしゃべっていましたね。

典子さんは人生経験も豊かで、子育てや家庭の事、いろいろアドバイスを頂いて今まで来ました。また何事をするのも器用で手早く、うらやましい限りでした。

趣味の一つに、生け花で話が合って、奈良市まで二人で花展を観に行ったり、二人で野山に咲く花を採って花器に入れたりしましたね。

また、十五、六年前に、小さな花柄の前掛けをすばらしいデザインで作り上げて、

私にくださいました。上級のひのきしんにはそれをつけて一緒にひのきしんをしましたね。今では汚れてはいけないと思いタンスの中にそっと入れています…。

それをつける時は、また典子さんと一緒にひのきしんをしていると思って勤めたと思います。



「水本さんへ」

坂口 光恵

(大淀町)

水本さんは手先が器用で、裁縫や手芸が得意でしたね。私が牛乳パックを使って作ったくまやうさぎの小物入れを見て、教えてほしいと家に来られ、二人で布やレースを選んで、いろいろな話をしながら作る事が出来てとても楽しかったです。かわいい小物が出来て喜んで帰られましたね。

支部の婦人会でも水本さんが、かばんや小物など色々教えてくださり、去年の二月には布で作るかわいなおひなさまを、型紙や布などを準備してくださって、少し難しかったです、みんなで楽しく作りました。私はとてもかわいかったです、あと二セットを家に持ち帰り作ったのですが、顔の表情をつけるのが難しくて、後日教会にお邪魔して教えていただきました。

その時、教会にはいろいろな種類のおひなさまがセンスよく飾られてあり、とってもステキでした。これからも毎年、水本さんを偲びながら、あのおひなさまを飾っていいと思います。

そして、昨年七月九日に西吉野支部が教務支庁のひのきしん当番で、暑い中水本さんも一緒にみんなで草引きをしましたね。まだまだお元気そうに見えたのに……。あの時が水本さんと一緒に出来る最後のひのきしんになるうとは……。又、こういう形で支部主任の大役を引き継ぐことになるうとは夢にも思っていないませんでした。

西吉野支部婦人会にとって水本さんの存在はとても大きく、ぽっかりと穴が開いてしまいましたが、皆さんの御協力を頂きつつ、その大きな穴を埋められるようお互いに助け合って、皆さんと共に支部の婦人会活動にがんばって行きたいと思えます。見守っていてくださいね。

本当に長い間お世話になりましたありがとうございました。

「貝の根付けと手提げ袋」

飯田 みち代

(桜井市)

典子さんは、以前から大教会でお会いしてもニコニコとお声をかけてくださって、ある時には、「貴女のしんどなってる夢を見たんやけど大丈夫やったん？」と聞いてくださり「私の事をこんなに気にかけてくれてはるんやなあ」と嬉しかったものです。三年前に、支部主任のお役をいただき、緊張して教区の婦人会の初例会に出席した時、典子さんのお顔を見てとっても嬉しく心強く思ったことでした。

こどもおぢばがえりの宿舍ひのきしんの時は、一緒に宿泊していろいろな事を夜の更けるのも忘れて話しましたね。ポチの事や子供さん達の事等、仲の良い御家族やなあと思いました。

教区婦人会では、江幡光子さんと名コンビで母親講座の係りをテキパキとこなしておられました。体調を崩されてからも治療を段取りして例会にも出席され、六月四日の天理幼稚園での母親講座を無事つとめられ、七月九日の教務支庁の西吉野支部の当番の清掃ひのきしんも元気で窓ガラスを拭いておられました。七月二十六日、偶然にお茶所の横の道でお会いし、「もしか会えたらと思って…」と言って、きれいな和風の手提げ袋を私に作ってくださいました。九月四日の例会で光子さんから「水本さんにメールしたけど、会長さんからの返事で、典子さんよくないらしい」と聞き、光子さんと光恵さんと三人で神殿でお願いづとめの後、病院でおさづけを取り次がせていただきました。典子さんは「大丈夫やと思とってんけど…ごめんね」と言ってくれましたね。責任感の強い貴女のことですから任期を最後までつとめられないことが心残りだったのでしょうかね。

典子さんにはいろいろ優しくしていただきました。はからずも思い出の品となつてしまった紫の貝の根付けは、車のキーにつけていつも持ち歩いています。手提げ袋は、勿体なくて使えないので大切にしまつてあります。これらの品を見る度に、典子さんの事を思い出すでしょう。本当にいろいろお世話になり、ありがとうございます。

「おやつのお味」

井村 善伸

(東大阪市)

典子さんが亡くなられた実感がしない。

典子さんと初めて出会ったのは、昭和四十五年頃、私と水本会長が大教会の少年会委員としてつとめさせて頂いていたときで、少年会本部より教会お泊り会の提唱があり、大教会少年会では部内教会100%お泊り会実施とお打ち出し下さり、水本会長さんは、その理を受けて新興分教会でもお泊り会をしたいので私に教会へ来てほしいとの依頼があり、初めて新興分教会へ行かせて頂いたときでした。

二年程お泊まり会をする毎に行かせて頂きましたが、教会の床や窓など隙間だらけでした。山の上の教会なので風当たりも強いらしく、冬はとても寒いだろうなあと思いました。会長夫婦は、その前までは世間勤めをしておられたので、よくこん

な所で(失礼)典子さんは、いつも明るく・やさしく・ニコニコとしておられるなあと感じました。その時は、私は独り者でしたから、嫁さんを貰うには典子さんのような人がいいなあと、お会いするたびに思っておりました。

その後、いつの頃からか、大教会の神殿当番(八日)も一緒につとめさせて頂くようになり、いつも変わらず明るくてニコニコと、ある時は蒸しパンを、ある時はクッキーを作って当番のおやつに持って来てくださいました。その美味しかった味は、今でも忘れることはありません。

手術後、退院されて、十月、十一月の大教会の当番に元気に来られたときは心から嬉しく思いました。また、翌年の二月二十四日大教会の月次祭に参拝された姿を見たときはとても嬉しいでした。

その後は、大教会の月次祭毎に、会長さんから典子さんの病気の経過や診断結果を聞かせて頂き、いい方向に向かうように親神様にご守護をお願い申し上げておりましたが……。お出直しを知りとても残念に思っています。

でも、また、来世でもきつとお会いできることでしょう。その日を楽しみにしております。典子さん有難うございました。

「カラオケにもう一度」

倉本 明美

(大淀町)

今でも新興の奥さんが出直されたという事が信じられません。
どこかから「明美ちゃん！元氣？」という声が聞こえてきそうです。

一緒にカラオケに行ったとき、中島みゆきの『糸』という曲を歌ってくれました。

縦の糸はあなた 横の糸は私

織りなす布は いつか誰かを 暖めうるかもしれない

縦の糸はあなた 横の糸は私

逢うべき糸に 出逢えることを 人は 仕合わせと呼びます

いい歌だなあとはい、今では私の持ち歌の一つとして、カラオケに行けば必ず歌っています。この曲を聞いたり歌ったりすると、いつも新興の奥さんの姿を思い出します。もう一度みんなでカラオケに行つて、一緒に歌いたかったです。

新興の会長さんご夫婦はいつも仲の良いご夫婦でしたし、奥さんは、子供さんたちにとつても本当に理想のお母さんだったと思います。



「典ちゃん、有難う」

坂上 雄豆

(大和郡山市)

典子さんには、生前大変お世話になり、一筆啓上し、心より哀悼の意を申し上げます、一日も早く私達の前にお帰りくださいますようお願い申し上げます。

最初の出会いは、私が詰所勤務をしていた時でした。確か検定講習に来られ、いつも笑顔で明るく、良く動く人でした。

私は、長年典子さんと大教会の神殿当番をご一緒させて頂き、信仰・身上・事情・人間関係の話などをさせて頂いたとき、また教わることもたくさんありました。その中で、私が身上になったとき、典子さんの心くばりで、毎回来られる度に食べ物を用意してくださいました。その配慮には心がこもっており、優しい心に感謝させて

いただきました。

また、辛い身上の中であつても当番にも来てくださることがあり、おさづけを取り次がせていただくとき、共に涙して、親神様・教祖にお願いさせて頂きました。『親神様・教祖、何とかご守護ください。こんな良い人を…』と。

教祖百二十年祭の年の九月二十六日、あまりにも若い五十四歳で出直されたことは、残念でなりません。また、告別式が私の誕生日であり、忘れられない思い出深い一日となりました。

お出直しになられて一年経ちましたが、一日も早く私達の前にお帰りくださいね。典ちゃん、有難う。



「すみだの花火」

神崎 寛美

(大淀町)

水本の奥さん、無理を言つてごめんね。押しの一手でなつて頂いた支部主任でありましたが、身上には勝てず、私達をおいて、とっと知らない所に行つてしまいましたね。協力すると言いながら何の手伝いも出来ないままのお別れ。とっても残念です。もっと話もしたかったし、もつともつと一緒にやりたい事もあつたのに…。さようならも言わず居なくなつた奥さんの事を思い出しては後悔ばかり…。残された私達のつとめを全うする事で、奥さんに少しでも安心して頂きたい。そんな思いであります。

今年の夏、「すみだの花火」という紫陽花を頂きました。可憐でやさしく、少し弱々しい、でも本当に美しく、短い命を精一杯燃やし、花瓶の中で静かにしおれてしま

いました。水本さんの奥さんを見ているような気がして、少し悲しくもありましたが、又、来年もこの花を見て、きつと奥さんの事を思い出すでしょう。

ふく風に

やさしくゆれる

この花は

心に残る

紫陽花のはな



「貴女の香り」

島 徳子

(下市町)

拝啓

貴女が逝って早いもので一年が過ぎようとしています。貴女の元気な姿を見たのは、昨年七月九日、教務支庁の清掃ひのきしんの時です。しんどかろうに責任感の強い貴女だから皆と一緒に頑張ってひのきしんしてくださいましたね。あの時、何を思い、何に向き合っていたのでしょうか。時々物思いに耽る時がありましたね。教祖とお話していましたか？

貴女から身上の相談を受けた時、適切なアドバイスも何もできなくて、どう言ったらいいのか頭の中でグルグル回って納得できるような事は言えなかった事、大変口惜しく思います。でも、最後の最後まで我慢強く、皆に弱音を吐く事なく、静か

に逝ってしまいました。本当に山百合の如く、人知れず咲き誇り、主張していませんたね。

一年経った今も、貴女の香りは漂い続けています。それだけ貴女が存在が皆にとっても大きかったということでしょうか…。今更ながら思います。

どうぞ親神様の懷は居心地が良いかも知れませんが、早くこの世に帰ってきてください。待っています。

敬具



遺稿集

大教会青年会女子青年総会で感話をした原稿、
天理時報に掲載されたもの、大教会会報「大和」
に掲載されたエッセー、奈良教区報に掲載され
たものなどをまとめました。

大教会青年会女子青年総会感話原稿

昭和54年10月14日 水本典子

本日は青年会女子青年総会に参加させて頂き、また行き届きません者が感話をさせて頂きますことは有難いやら恐いやら、よほどお断りしようと思いましたが、一度大きな恥をかいてみるのも経験だと思い、出させて頂きました。どうぞよろしくお付き合ってください。

私は下市分教会部内の新興分教会の後継者の妻とならせて頂き八年と四カ月になります。主人が世間で働いておりました時に知り合い教会の息子だということでも安心してたのを覚えております。私もそのときはおさづけを戴いておりましたし、二人が初めて一緒に行ったところはご本部参拝でした。私の実家も祖父母の代からの信仰でしたし、私も小さい頃はほとんど毎月のおつとめの日には参拝しておりましたが、祖母からも母からもお道については何も聞いておりませんでしたから自分で感じただけの信仰でした。今にして思えばとても成人が遅れていたのだと思います。

私たちが結婚するについて私の修養科行きが一つの結婚の条件となり、私はわりと素直

に行かせて頂きました。まだ十九歳でしたし、それだけ結婚への憧れで一杯だったのだと思います。修養科も無事に修了させて頂き、昭和四十六年七月十一日上級下市分教会で結婚式を挙げさせて頂きました。その頃も主人はまだ世間働きをしておりましたが、私の心の隅には教会へ嫁いだという自覚がいつもありましたが、教会の妻でありながら世間の中でその立場を理解して通って行くのは当初とても難しいことでした。さあ、にをいかけと思いはしますがついつい世情に流されてしまうのです。ただ毎月の月次祭参拝、また充分とは言えませんでした。が事ある毎に教会へ帰らせて頂き、お尽くしもせめてお給料の一分はと思ひ続けさせて頂きました。

最初、奈良市の高畑に家を借り出しました。家賃五千円の安さにまず魅力を感じてです。六畳一間の生活ではありましたが結婚できたうれしさで狭いながらも楽しい我が家でした。近所の奥さんたちとのお話の中でも常に自分はようぼくなんだと思ひ、人には親切、夫婦仲良く、八つのほこりなど少しづつ神様のお話をさせて頂きました。また、自分は聞き役になるようにも努めました。何も知らない二十歳の娘がいろいろの人の中でもまれ、人に合うことからまず勉強させて頂き、今にして思えばとても良い勉強になりました。一年ほどして長女が誕生し、ますます生活が充実してきましたが、生後一年半ぐらいからアトピー性皮膚炎というのができてとてもさんげさせて頂きました。皮膚はつなぎのご守

護と聞かせて頂き、自分を振り返ってみて特に主人に対して切る言葉遣いをしてきたことに反省し、親神様へも深くおわびしました。そしてつなぐこと一切により努めました。少しづつではありますがご守護頂き今はもうほとんど治っております。

四年程して長男が生まれ、元気で可愛い子どもを一女一男授けて頂きこれ以上の喜びはございませんでした。セールのお仕事の方が参りましても一応お話を聞かせて頂き不必要な物はお断りしました。すると大抵の方は「奥さんはちよつと違うなあ、何か信仰でもしているのか」と聞かれます。「はあ、実は私は天理教です。主人の家は教会をしております」やつとここで私の出番が来まして少しづつお話をさせて頂くのですが、年も若いし経験も浅いので、かしの・かりもの話だけさせて頂くのが精一杯でした。でもこうして家にいながらでもにをいかけがをしようと思えばできると思うと行かなければと焦る気持ちが落ち着きました。

主人の会社の転勤で五年程して舞鶴へ行きました。舞鶴の生活はとても勉強になった一年半でした。住居の方も一度に六畳二間四畳半一間キッチン六畳、お風呂付きで奈良に比べて広いこと。家賃も五倍の二万五千円になり、主人はいつも一流企業と自分で申しておりましたフランスベッド株式会社の支店長昇格。今まで出す一方の生活でしたのが初めてお中元、お歳暮を頂き二人して笑ったものです。京都の北部と言えれば近いようですが、奈

良県を離れたことのない私です。とても遠いところに感じました。母なんかも地の果てへでも行ってしまうように思っている心配かけたようです。暮らしてみても分かったのですが地元意識がとても強くて、大きく分けて、自衛隊か日本板硝子、日立造船ぐらいしかない町です。なんとなく固まっている感じなのです。

奈良の方や大阪はあちこちから人が集まって来ていますのでお互いに地元意識がないものですから気軽に付き合い合ってくださいましたが、ここ舞鶴では溶け込むまで苦労致しました。教会のある吉野下市へは汽車に乗りっぱなしでも四時間以上かかります。遠く親元を離れて知り合いもできない頃とても淋しい思いもしましたが私の大きな心の慰めになったのはここ舞鶴にも天理教の教会があったということです。ここにも親神様、教祖がおられる。とても心が落ち着いて安心できました。

やがて土地にも慣れて話相手もできるようになり、子どもを通じて親しくお付き合いくださいました。当時長女は四歳、長男はヨチヨチ歩きで毎月の教会の月次祭に帰りますときは二泊三日分荷物を両手に持ち小さい方を背負い一人を肘で押しながらの道中を帰らせて頂きました。主人は会社の都合で帰られるときと帰られないときと半々ぐらいたったでしょう。苦労して帰らせて頂くと、喜び一杯でご両親は迎えてくださり毎月の楽しみの一つでした。

そして今度は大阪・寝屋川転勤です。やっと慣れたと思ったらまた引越し、荷造りも大変でしたが何よりも子どもが可愛そうでした。お友だちと離れ新しいところへ来ると馴染むまで仲間外れです。家の方はこれまた舞鶴と違って文化住宅の一戸を借り、六畳二間。家賃はこれまた上がって二万八千円。奈良にいる頃に比べれば子ども二人が増えたことだしその狭いこと狭いこと。荷物の中で寝ている感じでした。

そうこうしている内に父会長が身上になりました。病名は食道ガンとのことです。もうダメかと思われるほどの身上で家族一同ショックでした。私たち家族がおたすけで救けられないのなら持っている物の中でお金を替わるもの全てを親神様に受け取って頂こうと思いい子どもにも事情を言いつて聞かせて真心と一緒に御供えさせて頂きました。私たちのタンヌの中もすっかり空っぽになり少しでもお手伝いできると思いうれしいでした。なんと不思議にも何も喉が通らなかった会長様が何でも頂けるまでに御守護頂き目の当たりに神様をお見せ頂きました。会長様の徳は言うまでもありませんが、その中の少しでも私たちの思いも受け取って頂いたものと信じております。私にとってこれは初めて神様を見た経験になりました。

さて、主人も三十歳になり、そろそろ教会へ帰って親孝行をいつも二人で話し合っていました。丁度その頃、上級下市分教会四代会長様のお出直しと父会長の身上により私

たちの心は完全に定まりました。一条への道へと決心、教会へ帰らせて頂くことになりました。またいつも二人で話し合って、帰らせて頂くのは身上、事情もない今こそがご用の上にお使い頂けると思わせて頂き夫婦共々固い決心をして、主人は昨年暮れ七年間の会社勤めをすっきりと辞めさせて頂きました。

私たちには大きな目的があったのですから何の不安もありませんでしたが、世間の方々からはいろいろと会社を辞める理由を聞かれました。やはり、ここで私たちは天理教の教会をやって行くべき者ですが、こうして世間でいろいろと勉強もさせて頂きました。これからは自分の為だけの人生ではなく、人様、人だすけの人生を送らせてもらうのです。また親孝行させて頂く親も両親揃っておつてくださいます。でも生活費はどうなるの？これが最大の疑問のようでした。私たちは元々教会の人間という自覚の元に生活させて頂いておりましたので、何なりとお与え頂けることを信じておりましたから何の抵抗もありませんでしたが、他の人はなかなか分かってもらえないようでした。私はそのとき三人目の子をお与え頂き妊娠六カ月でした。教会へ帰ることになり、またまた荷造りが始まりいろいろの整理を済ませ、今年一月に教会の方へ帰らせて頂きました。とても気持ちがつきりました。教会でありながら世間暮らしはとも引け目を感じたしそれなりに辛い面もあったのです。本当に心が落ち着きました。

私たちが帰らせて頂いて少し経ったところから会長様の身上の再発です。食道ガンは恐いものでした。物が喉を越さないのですから。食べてはみるのですがやっぱり胃まで行き着きません。みんなと一緒に食事の時、もがき苦しむ姿は本人はもちろん周りもとても辛い毎日でした。お互い不足が起るのです。病人にしてみれば「お前たちは良いなあ、何でもパクパク食べられて」と皮肉たつぷりです。私たちにしてみれば食べている側でゲーゲー戻されると気分のいいものではありません。これは本音でした。

私は初めての教会生活。大きくなる一方のお腹を抱えて、今までの四人家族から一度に八人家族になり何もかも二倍の忙しさになりました。また、朝起きも慣れない為、身上の会長との間で勇めない日もありました。疲れて不足の出がちな私を主人は毎晩励ましてくれ立場を理解して労ってくれました。私に主人がいなければとつくにくじけて家を出ていたかもしれません。でも主人は反面理に厳しい人でもあります。

この中で五月に次女が誕生しました。をびやゆるしのご守護で入院の荷物が着くまでにお産は済んでしまい慌てたほどの安産をさせて頂きました。また三人子どもをお与え頂きましたが三人共予定日きつちに産ませて頂いております。これから結婚して妊娠された方はをびやゆるしを戴かれることをお勧めします。

教会へ帰ってからのもやもやとした気持ちもこの出産を機に吹っ切れて心が本当に入れ

替わったようにすつきりしました。上級の会長さんからも「矛盾を喜ぶように…」とお教え頂き何でもありますが、ごくろうさまの言葉を会長さんから頂いていたのではあなたの徳が積みめん。後々の話の台にならんと聞かせて頂き劳いの言葉を期待しなくなりました。それから私は暇をみつけて信者さん方、また身上の方へのおたすけへと少しづつ行かせて頂くようになり初めての方にをいがけに行っても心して、夫婦仲良く、親孝行とみんなの手本にならせて頂くよう、これが何よりのにをいがけになると信じて頑張っております。

会長様は八月の末から三度目の入院となり、お母様も付き添いで家の中は今、私たち若い者と子どもたちだけになり留守を預かる身として今まで以上に真剣に朝から夜眠るまで一日を忙しく充実して送らせて頂いております。

病院で寝ている人にとってお見舞いに来てくれるのをとても楽しみに待っております。最低一日一度会長様の好物を持って行かせて頂くとても喜んでくださり忙しい中行かせて頂いてもやっぱり来て良かったと思えるのです。昼に行けない時などはもう今日はやめにしとこうと思いはしますがやはり待つておつてくださると思ひ直し夜街燈もついていない山道を病院へ急いだ日もございます。十分に喜べないままの今までの親孝行を親神様がみかねての今度のこの身上、入院になったのだと私は思います。こんな私にも親神様は親孝行のまねごとをさせてくださる、結構もご守護、不自由もご守護何もかもが

ご恩に包まれての日々です。このことがなければ私たちは親子一つになれなかったのではないのでしょうか。

もう会長様の退院も間近です。帰られたらより以上に喜んで頂くことをしようと今から帰られる日を心より待っています。これからも充分とも行けなくともお道のご用に、親孝行にと頑張らせて頂きます。今日この頃では今までの私と違って何でも喜べます。なぜなら夫婦が一体となって一つの事をさせて頂けるのですから。未熟な私ではございますが皆様どうぞ宜しくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

天理時報掲載 昭和56年（1981年）9月13日号

「修養科」

水本典子 新興分教会会長夫人

私どもの会長は昨年一月に就任したばかりで、まだまだ思うような成果は見られません。しかし時間をつくっては、にをいがけに出てとにかく一生懸命なのです。ゼロからの出発

という意味で、今年ののをいかけデーは本当にありがたかったです。

今、憩の家に入院しておられるおばあさん、おたすけに通っております。にをいかけデーには天理時報を届けさせて頂いたのですが、その人は一面の西礼拝場の写真を見て「ここから見えるのですが、こんな立派なものとは知らなかった。退院すれば、すぐにでも西礼拝場に参拝したい」と言って下さったのです。それに修養科入りも心定めて下さり、ようやく思いが伝わりました。

注 神殿前でのインタビューで。文中のおばあさんとは、谷一二三さんで、胃の手術のため入院しておられました。

天理時報掲載 立教一五五年（平成4年）3月8日号

「拝啓 おやさま」

おやさま、日々は結構にお連れ通りいただきましてありがとうございます。寒い日が続

きますが、わが家にはひと足早く春が来ようとしています。

四年前、長女が天理高校二部に入学させていただきました。本人の強い希望ではありましたが、親子が離ればなれになるのは初めての経験でしたので、とまどうことばかり。娘も学校と仕事の両立や人間関係で随分悩んだようでした。

一年生の時、帰省した娘を送り届ける道々、娘はおちばが近づくにつれて口数が少なくなり、ついに寮の玄関で泣き出す始末。私の方もせつなくなつて涙ぐんでしまいました。

その後も、身上（みじょう＝病氣）・事情と再三お手入れを頂き、そのたびに親子でさんげしたり、心定めしたりの日々でした。

周りの方々に励まされ、たすけられて、ようやく卒業に手が届くまでになりました。二月二十二日の卒業証書授与式を親子で楽しみにしております。

勤務先の方々、寮の皆さん方の真実、根気よくお導き下された先生方のご苦勞は言うまでもなく、親神様・おやさまのご守護の数々に、どれほど感謝しても足りません。

おやさま、四年間娘をお見守りいただきまして本当にありがとうございます。娘は引き続き、おちばに置いていただき、ひのきしんに励ませていただく決心をしております。どうかよろしくお願い申し上げます。

水本典子（40歳・奈良県吉野郡）

「プレゼント」

平成5年7月号

忙しい春が過ぎ、心身共に疲れが限界ぎりぎりまで来ていた。倒れてからでは遅すぎると思い、一生懸命働いた自分自身へのプレゼントに、以前から一度行ってみたい思っていた奈良の古寺を巡って来た。

勿論主人を説き伏せて二人きり心楽しく出発した。

最初は、一番心惹かれていた高畑界限にある「白毫寺」。今から二十一年前、私たち夫婦の新生活のスタートを切ったすぐ近くである。

五年も住んでいながら一度も訪れる機会がなく月日が流れてしまっていた。

崩れかかった土塀の横にそよそよと竹林がゆれて、遠い昔の人々が積み上げたであろう石段をゆつくり登って行くと、もうその瞬間だけで私の心の中が何とも云われぬ満足感で一杯になった。憧れていた風景そのものがやさしく私を包み、仏像たちは何百年も前からずっとひっそりとたたずみ、どの顔もやさしく、心安まる時間であった。この感激を忘れ

ないためにと、ふと目についた小さな花器を買い求めた。

その後、秋篠寺、法華寺、長谷寺を廻って楽しかった一日を終えたのだが、夫婦二人きりで初めてこんな時間を持てたことを本当にありがたく思う。

今日、あの小さな花器に紫のてっせんを活けた。そのとき、さわやかな風が私の心の中をすーっと通り抜けた。

それは丁度、教祖が「ごくろうさん」と声をかけて下されたように聞こえた。

教祖ありがとうございます。

「四十の手習い」

平成5年11月号

結婚して早や二十二年が経った。本当に「あっ」という間だった。結婚してからは次から次への転勤、四人の子供の出産と生活に振り回されている間に四十歳も過ぎてしまった。ところがである。今年の春、私に軽自動車のお与えがあった。それまで二十三年間、我慢じやないが車をさわりもしないペーパードライバー。主人という恐ろしい教官の特訓で

一週間でどうにか乗れるようになった。それから毎日、車に乗るのが楽しくてたまらない。いくら疲れていても車に乗るとシヤンとするから不思議。どうしてもっと早く乗らなかつたのかと悔しくさえる。

怖いもの知らずの性格も手伝つてか、田んぼに落ちてレッカー車のお世話になったり、バックの時、塀にぶついたりしながらもめげずに毎日楽しく乗っている。

自分では安全運転のつもりであるが、それに引き替え何とマナーの悪い車の多いことか。いちいち腹を立てていると神経が持たない。そんな人達も私のように初心に戻ってほしい。「運転は命がけより心がけ」というではないですか。

少しかじった洋裁の方も子供達が小さい頃、手作りの洋服を着せて楽しませてもらった。これは好きも手伝つて今も少しずつ続けている。遊び半分でお友達にも月に一、二度教えに行ったりもした。また友人の紹介で生け花を教えて下さる方がいて、大好きな花とも向かい合うことができた。

「習うより慣れよ」のことわざどおり、生活の中で役立ち、人様のお役に立てるのなら習い事も生きてくる。ほんの少し、娘時代にかじつておいて良かったと、導いてくれた親に感謝している。もっといろいろな事に挑戦したい。だってまだまだ私は若いんだから。

「一大イベント」

平成6年3月号

今年もいよいよ受験のシーズン。毎年の事ながら、生徒達にとっては心の重い、一番辛い時期である。

また、家庭にとっても辛い。腫物にさわるように、我が子を扱ってしまったたり、「もっと勉強しなさい」と、プレッシャーをかけたり、寒い冬と重なって、よけいにその年は春が待ち遠しい。

我が家も二人の子供達がその暗いトンネルを無事にくぐり抜けて希望のおちばの学校へ入れて頂いた。

私としては夜食を作つてあげたこともなく、さつさと先に寝てしまい、母親らしい事は何もせず、子供達が自力で頑張つたように思う。

ある知り合いの方は、我が子が小学校に入る頃から受験体制に入り、高校、大学の受験のたびに大イベントのように大騒ぎだった。その状況を聞いているだけで、こちらまでしんどくなりそうだ。

だが、そんなつとめ方がその方にすれば「親らしい」という事なのだろう。

また、ある方は心が神様にもたれておられるので、「あの子の入れて頂ける学校が一番良い学校」と言われる。きつと心配はしておられるだが、一步離れて我が子を見つめておられるように思う。

「付かず離れず」このバランスがうまくとれば、親子関係は素晴らしいものになるに違いない。どうしてもくつき過ぎてしまい、子供にとっては負担になってしまいう事になる。

悲喜こももものドラマが展開される春はもうすぐそこ。一人残らず希望校へと願う親の思いは神様もきつと同様に違いない。

私達信仰しているお互いは、まず受験する年まで我が子を健康にお育て頂いたことに感謝したい。

「ペーパードライバー（その後）」

平成6年6月号

ペーパードライバーを返上し、ハンドルを握って一年が経った。やっと心の中の若葉マ

クが取れる。

この一年車に乗らない日は無い程、毎日乗った。

病気になった時も苦しい息遣いの中、病院へ通ったし、子供を駅への送迎もした。何よりうれしかったのは母を連れてあちこち行けた事で、少しは親孝行の真似事が出来た事。お陰でとても楽しく充実した一年を通らせていただいたように思う。

自分が車と一体となって走る楽しさやうれしさ…。

もっと早くに気軽に車と付き合えば良かった。今日では車は私には便利さだけでなく、なくてはならない存在となった。

こんな思いをする事は他にもいろいろある。

たとえば夫婦の心。

なかなか自分の心と相手の心が一体とならず、けんかをしたり情けない思いをしたこともあった。だが子供達が自分達の結婚した年頃になると、もとめたり、責めたりの数回が減って、お互いになくてはならない人となってくる。夫婦もやはり便利さだけではない。

嫁、姑の関係にしても、最初が必要以上に気を遣ったり、小さな事も聞き流したり片目を瞑って見ることが出来なかった。だけど肩の力を抜いて自然の流れに乗ると、とても楽

でいい関係になることがわかった。

車の運転同様、人間関係も思いやりの心で譲り合うことが衝突を防ぐと思う。若葉マークは取れても、いつの日も笑顔で「ただいま」と我が家に帰れるよう心引き締めたい。何事も慣れた頃が危ないと言いますから…。

「庭の花のように」

平成6年11月号

暑かった夏が過ぎて、短い秋が駆け足で通り過ぎようとしている。

私の家の小さな庭にもそれぞれ私好みの草花が秋を教えてくれている。秋桜、水引草、ほととぎす…。いつでも目の届く所に置いておきたくて、種や苗をいただいて植えたものばかり。

生活の中に四季の花々があるだけで、今までどれだけ心を和ませてもらったか数えきれない。その小さな庭にもこの夏、異変が起こった。

どれでも皆好きな花ばかりだけど、特に「ベスト3」に入るぐらい気の入れようだった

花が二本枯れてしまった。思えば今年は五月頃から雨が少なくて良いお天気が続いた。また、運悪く、初めての入院という大異変が起こった。幸い大した事もなく、二週間で退院させていただいたのだが、その間に枯れてしまったのである。

心身共に弱っていたので大切な物を失った事はショックでもあった。動物はよく、飼い主の身代わりになるというけれど、私の身代わりになってくれたのかとさえ思った。

お陰様で私の方は日に日に元の状態にへと戻り、日常生活を不自由なく過ごさせていただけの様になった。入院という事態になって、人様のお世話になり、心の温かさや、真実をたくさんいただいた。家族も皆で助け合って私を支えてくれたし、見回せばご恩になった人ばかりである。この事は身体が元気に元に戻っても、忘れる事なく心して毎日を通りたい。

私自身は小さいものだけど、庭の花の様に人を和ませる、人を喜ばせる様に、いつまでもやさしく咲いていきたいと思う。



「思い出をありがとう」

平成7年7月号

雨がよく降る春でした。が、その日は娘の結婚を祝福するような五月晴れ、ほんとうにさわやかな良いお天気になりました。

親子として暮らした二十三年間はあつという間に過ぎて、おつとめ衣に身を包んだ娘はただ眩しく、人形のように身支度してもらい、教会を後にしたのです。

教祖の御前にぬかづく二人を見てみると、ここまでお預かりさせて頂いた喜びが胸一杯にあふれ、ただただ教祖にお礼を申し上げたのでした。

大勢の方々に祝福されての披露宴も夢の中の出来事のように過ぎてゆきました。

思い返せば二十四年前、私達夫婦の結婚式は簡素で、平服での披露宴でした。若過ぎたせいもあつてか、列席した人、皆に賛成されての結婚ではなかったのです。

母の夢でもあつた花嫁衣裳も着ず、淋しい思いをさせた事を、今も心の底で詫びている私なのです。

娘は周囲の人々のご好意により、思いがけず三度のお色直しもさせて頂き、子供の頃よりよく言われた「市松さんのようやなあ…」の言葉通り、人形のように可愛く、彼の横で

幸せそうに微笑んでいました。私の母も列席し、とても喜んでくれ、やっと私の分も満足してくれた気がして、娘を通して、少し親孝行できた気がします。

子供達の御陰で、私達は父となり母となりました。娘がこれから子育ての喜びを体験していくのが、今から楽しみです。二十三年間楽しい思い出をありがとう。

今日も結婚式の写真を見ては、一人笑っている私です。

「すばらしい贈り物」

平成8年1月号

不幸な事件が相次いで起こった一年が終わった。カレンダーを一枚めくっただけなのに新しい年が明けて、お正月気分が華やいでいる間に昨年のこととも忘れそうになる。

毎年「今年こそは…」と心新たに決意することがあるが、続いた試しがない。どうしてこうも飽きっぽいのかと自分が情けなくなるが、「今は、この用事で忙しいから」「今はちよっと疲れているから…」と自分に言い訳して、やがては開き直っている。

そんな私にも十年近く続いている事が一つだけある。本来は早起きが苦手で、いくら早

く寝ても起きにくい体質を改善したくて始めた朝刊配りである。近所をほんの少し配るだけだが、根気と体力が結構いる。バイクの籠から新聞をひっくり返してビショ濡れにしたり、真つ暗な雨の中ドブに落っこちたり…。毎日変化に富んでいて眠気など一瞬にして吹っ飛んでしまう。時々本来の癖性分が出て、寝坊してしまい「遅い！」と玄関で待っている人に文句を言われたりするが、何とか今日まで続けてこられた。

走っている途中にふと自分が堪らなくみじめに思えたり、人の寝ている間に働いていると誇りに思えたり、誤配して頭がパニックになったりするが、何よりの感動は、親神様のお恵みの四季の移ろいである。真冬の月の輝き・春の甘い花の匂い・夏の清々しい昇りたての太陽・秋のおいしい空気…。布団の中では味わえない「すばらしい贈り物」を毎日戴いている。

毎朝、目が覚めて働かせて頂ける事に感謝して一日が始まる。これ以上の喜びがあるだろうか。「もう今月で退めよう」と何度か思うが、「また朝寝坊するに決まっているからもう少し頑張ろう」と思い直し、今日もまだ明けやらぬ街へ走り出す。

あ、そうそう。忘れてました。続けていることがもう一つありました。私達の夫婦仲も二十五年も続いています。

「手紙」

平成8年7月号

先日、久しぶりに鏡台の引き出しを片付けていたら、奥の方から手紙らしきものが出てきました。どうやら娘たちが、私あてにくれた手紙のようです。かわいい便せん
に幼い字でめんめんとお母さんである私のことをほめてくれてあって、ちよつとこそばゆ
いようなうれしいような――。

それは、何年か前の母の日にくれたようです。もう一通は、私たち夫婦の十年目の結婚
記念日に書いてくれたものです。よく飽きもせずお父さんと、十年も付き合っているなあ
と、というような文面で笑ってしまいました。また、私が、病気で入院した時、励ましの意
味でくれた手紙もありました。文字の一字一字に淋しさと悲しみが、にじみ出て、何度も
読み返しては、病室で泣いたものです。

子どもたちに何も買ってやれない苦労の道中、心だけは豊かにと子育てに心を込めたつ
もりです。どの手紙にも「お母さんありがとう」「お母さんおめでとう」「お母さん早く元
氣になってね」と、結ばれていました。

草かんむりに母と書いて母と読みますが、母とは母のように甘くて滋養があるもの、又、

母の愛は、海よりも深くとも言います。私は、赤点すれすれの母ですが、子どもたちが、毎年、母の日に心を込めてくれるやさしい子に育ってくれたことをありがたく思います。私には、主人の母、実家の母と二人の母が健在ですが、毎日が「母の日」のつもりで親孝行しなくては――。

私は宝物であるこの手紙を、引き出しの奥にそっとしまいました。とても幸せな気持ちで。

「小さな立ち雛」

平成9年2月号

今年も、お雛さまを飾る時期が近づいてきました。いくつになっても女性は、人形を見ると、心も和らいで、優しい気持ちになれるように思います。

昨年の今頃、私は晴れない気持ちで人形を見ていました。町の乳ガン検診で「疑いあり」と診断され、ガンなんて人ごとだと思っていただけに、突然、崖から突き落とされたようなショックで、絶望的な気持ちになりました。検査結果が出るまでの二週間は、何をして

も上の空、「もし私が死んだら」が、何度も頭の中で繰り返され、主人や子供たちはどうやって生きて行くのだろうと案じる始末。生きた心地のしない日々を過ごしたものです。結果は「ガンの疑いなし」と出ましたが、患者の方々の、何とも言えぬお気持ちを、わずかながら身に染みて感じさせていただきました。

先日、実家の母から電話で、「教会の奥さんが、乳ガンで入院」との知らせがありました。身の引き締まる知らせでした。感謝の気持ちを忘れつつある私に、カッを入れられたように思います。やはり人ごとではありません。いつ自分になってもおかしくないんだと感じました。毎日毎日で大難を小難に、また無難に通らせていただいていることにもっと感謝しなければと、あらためて思い直しました。

私の大好きな、小さな立ち雛も、そろそろ出番を待っていることでしょう。

今年は、こんなに元気で、笑顔いっぱい私の私を見てほしいものです。

もうすぐ春、人形に会えるのを楽しみに待っています。

「美しい手」

平成9年9月号

あゝ、今日も一日が無事終わった。お風呂に入りぼおーとする時が、私の一番好きなひととき。湯上がり後、顔や手や足の手入れをする。いくら手入れをしてもきれいな顔や足。

手入れ次第で美しく保てるのが手だと思っているから、毎日ハンドクリームを欠かさず塗ってきた。子育ての頃はおしめを洗ったりで随分アカギレもした。また、草取りの後などは、可哀想なくらい荒れている。しょうがない働く主婦の手だもの。日にも焼けて真っ黒になるし、若い娘のように白くツルツルの手ではおれぬのが現状。

子供の頃、伯母が私の指を見て、器用そうな手だと褒めてくれたことがある。この指のお陰かどうか分らないが、私は物を作るのが大好きだ。洋服を縫ったり、ケーキを焼いたり、花を育てたり……。最近、少しのお友達と手話を習い始めた。黒い手、白い手、少ししわのある手。それぞれが一つの事に集中して手を動かすが、なかなか指導通りに動いてくれない。が、手や指は生き生きとしてとても美しく輝いて見える。

本当の手の美しさは外面より、一生懸命使っているしぐさにあるようだ。おさづけを取

り次ぐ手。花にそつと添える手。赤ちゃんの手とつながる手。大切なものと接する時はいつでも美しく優しい手でありたい。

今まで私は、ルビーや真珠の指輪をはめた事がない。しかし、今夜も私は、ハンドクリームを塗りながら、せっせと手や指のお手入れに余念がない。「いつかダイヤの指輪をはめる日がくるかもしれないから……」

「春がきた」

平成10年4月号

春がきた。

あんなに燃えた雪の中の長野オリンピックがもう随分前のような気がする。

一月から主人が単身赴任で留守だったせいかな今年の冬はとても短かった。今まで何度も三ヶ月間不在の経験はあるが、その都度生活状況も子供の年齢も変わってきているので、大変ながらも生活に変化もあり新鮮であった。

最初の頃は子供も小さく、乳飲み子もいて毎日がとても淋しく、悲しく、切なかつた。

また、夜になると小さな物音にさえふるえ、不安でいっぱい、私にはとても長い長い三ヶ月だった。

年齢とともに責任も用事も増えてくると、しつかり留守を守らねばと力が入った。それでも、よそのご夫婦を見るとやはり淋しかった。離れている分だけ夫婦としての寿命を延ばしてもらえんだと自分には言い聞かせて乗り切った。

今回、主人も私も人生の折り返し点を回った年齢となり、以前のようにお互いを強く必要としているだろうか。と、問われれば自信がない。確かに主人がいれば甘えていられる。いろんな事で自分の力のなさを感じ、目に見えぬ部分で日々とめてくれていたと感謝せずにはおれない。

表面に出てくる諸事情よりも内面にある、夫婦としてどれだけ心を通わせているのかこの機会に見つめ直す時間を与えていただいたと思った。その間に、子供の受験や、卒業式やら、日常の雑用に追われて、まもなく三ヶ月も終わろうとしている。淋しさも切なさもないままに。

求める事ばかりの若い頃ではあつたけれど、主人のことも心から求めていた。今、思うとあの頃がなつかしい。誰でしょうか、「亭主元気で留守がいい」なんて言ったのは。決して私はそんなことは思っていないよ。

もうすぐ、「ただいま」と言つて主人が帰ってきます。そしたら家族揃つて歓迎パーティーでもして、三ヶ月間の労をねぎらいたい。

春よバンザイ！

「落とし穴」

平成10年9月号

私は今、ちょっと元気がない。暑さばかりのせいでもない。身体がどうこうでもない。心の底から笑えない。喜べない。とにかくシャンとしない。長い人生の中にはいろんな落とし穴がある。小さな穴にはまつて躓いたり、大きな穴にはまつて、ケガをしたり…と。

今、私がはまつている穴は、どれぐらいの大きさなのだろうか。もう半年ほどはまつて出れない穴だ。出口に手は掛かっているが、もうちよとのところで、また底へ落ちてしまう。いろんな形で脱出方法を試みた。でも根本の部分が解決しない限り、出られそうもない。あと何日、何カ月と分かっているればまだ楽だが、なんだか分からない渦の中へ巻き込まれてもがいている。

私が本来持っているはずの明るさや、優しさがちょっと雲隠れしている。

そんな或る日、大輪のヤマユリを持ってきて下さった方があった。ユリは、私の好きな花のひとつで、今年も我が家の庭で丹精したカサブランカをはじめ、数種のユリが咲いた。芳香を放ち、そのヤマユリは私に「元氣を出して」と語りかけてくれているように見えた。暑い毎日の中で、清楚ではあるが、華麗なその花は、家中を明るくしてくれ、ユリのイメージである純潔、清浄の言葉どおり、まさしく一時、心の濁りを清浄してくれた。自然の大きさから見れば、人間の感情などは、ちっぽけなことなのだろうなあと考える。少し元氣が出てきた。自分のことばかり考えていた自分が見えてきた。このユリのように明るくて、存在感のある人間にならなければと考えた。そして私は今、再度、穴の縁に手をかけて脱出を試みている。きっと私の待っている人が手を差し伸べて引っ張り出してくれると信じて。

「母の温もり」

平成11年1月号

先日、誕生日が来て四十?歳になった。私はこの歳になるまでありがたいことに良い人

間関係に恵まれて通らせていただいていた。

特に、身内に至ってはとてもいい関係で、毎日賑やかに仲良く暮らしている。母も二人とも健在で、いつも親心いっぱい私を包んでくれているし、八十八才の祖母も元気でまだ私に小遣いをくれようとさえする。つくづく幸せ者だと思う。

つい先頃、私の教会に繋がる若い奥さんのお母さんが亡くなりました。かなり遠方ではあるが、お葬式に列席させていただこうと夜行バスに乗った。以前訪れた時は、飛行機でひとつとびだったが、今回は何度も乗り換えての旅で不安もあった。道中つくづく「こんな遠い所からよくぞ奈良まで嫁いできてくれたんだなあ」と彼女が愛(いと)おしくなった。大勢の兄弟姉妹の長女として、葬儀の手伝いや、弟や妹の世話やらと、一生懸命動いている姿を見て、つらいだろうけど彼女ならこの節をきつと乗り越えられると安堵した。

私にも嫁がせた娘がいる。亡くなられたお母さんがどんなにか子供達のことを気がかりだったか。母親の気持ちも解る。また彼女がいかに母を慕っていたか娘の気持ちも解る。

実家へ行くと、母はいつも車いすのお土産を持たせてくれる。そうして決まって帰るときは車が見えなくなるまで庭先で立って見送ってくれている。暑いのに…、寒いのに…、もう家の中に入ればいいのにと申し訳なく、私は手を振り親の温もりの余韻に浸りながら帰る。

親なんて、親バカとバカがつくぐらい子供のことがいろいろと気になるもの。体力的にもいろいろな立場で、親より力が付いてきても、親の声を聞いただけで、親の顔を見ただけで、ホツとし甘えなくなる。

親と子の両方の立場と気持ちが解るだけに彼女の母の死はつらくやるせない。私は彼女の母にはなれないが、母代わりになれるよう暖かく包んであげたいと思っている。私の母達が私を愛してくれているように。

「待つ」

平成11年7月号

最近、主人の母の体調が思わしくなく一緒に病院へに行くことになった。

母は若い頃から苦勞して来た人なので身体は鍛えられていて六十代の頃などは二十代の私よりも力も強く病氣知らずの人だった。

「医者に一回も手を握ってもらった事がない」と言うのが一番の自慢でもあり口癖であった。あまり丈夫でない私はいつも引け目を感じていた。そんな母も八十路を越え高齢と言

われる歳となった。体力が衰えていくのが傍目にもはっきりと分かるようになり、今日の病院通いとなった。

母と手をつなぎ、診察やら検査やら一ヶ月の間に何度も通院するうちに、私の心の中から、今までとは違う何とも言えない沸き出てくる感情に気がついた。それは母の姿が私の身体の一部のように目に写った事だった。母とびったりと一体となって自分がそこを歩いている。母は自分自身の姿だと……。こんなふうに思ったのは初めてだった。

今まであった、いくつかの大小の壁を越えてやっと本当の親子になれたような幸せな気持ちになれた。いくらしつかりした人でもいつかは老いる。その時にやさしく労り合える親子になるのが理想だった。三十年の年月が経ったけれど、何一つ今まで通ってきた中に無駄なものはなく、全て自分に与えられた勉強だったのだと思う。

「待つ」と言う事は、育てる事。人を育てるのも、作物や花を育てるのも待たなければ育たない。母も長い年月かかって、私の育つのを待っていてくれたのだと今更ながら感謝している。

二人を神様が受け取って下さったのか、検査の結果は異常なしと出た。

「いつまでも長生きして下さいね。お母さん。親孝行はまだこれからです」

「父子物語」

平成12年5月号

人には何歳ぐらいからの記憶が残っているのだろうか。私は三歳ぐらいの時から思い出せるのだが……。

それは決まって、父と一緒にいる時で、他の家族はあまり登場しないから不思議だ。ご飯を食べる時は、父のあぐらの中に座り魚の骨を取ってもらい食べていた。また、お風呂も父と一緒に浴槽に入った。湯舟の中でタオルをポンと投げて空気を抜く音がポコポコと鳴るのが面白くて何度もせがんだ。そして上がる時はいつもタオルで顔を拭いた。もちろん出かける時は父の自転車のハンドルについた籐の椅子に乗りとても楽しかった。父は大阪へ出かける時、しゃれた帽子やワンピースを私によく買って来てくれた。多分父は私を猫可愛がりし、私もまたお父さんの典型だったんだろうと思う。

その父が昨年に平均寿命を全うし出直した。百日祭全てが済むまでお天気は続き親類の人々からその事を何よりも喜ばれた。私はと言えば自分自身の身の回りが忙しくて悲しみから早く立ち直れたのが今となっては却ってありがたかった。

今、世間を賑わしているニュースと言えば我が子に保険をかけて殺したり、他人の小さ

な子を殺したりと信じられない事件が多い。何の抵抗もできない子を殴ったり蹴ったりと暴力を振るう幼児虐待も多いと聞く。自分の事ばかり考えて子どもを守れないのが悲しすぎる。親に愛された記憶は幾つになっても心に残るのに……。

私は、あらためて今は亡き父に目いっぱい大切にしてくれたことを感謝している。

「自分育てをしよう」

平成12年11月号

歳をとれば人の世話にならず、「コロツと死にたい」とみな口をそろえて言う。少し寂しい気もするがそれが本音なのかもしれない。

私は、今や老眼鏡なしでは何も見えず、耳も少し遠くなった気もするし、老いは人ごとではなく身近に感じだした。主人の母も私の母も今は元気だがいつどんな病気で倒れるかも知れない。その時少しでも病気が理解できたら、介護の方法が分かったらいつも思っていた。

そんなある日、タイミング良く友だちが「ホームヘルパー養成講座」を受けようと誘っ

てくれた。自慢じゃないが、運転免許以外、何一つ資格を持たない私。資格ほしさも手伝って受ける事にした。三ヶ月に亘る真剣な授業、老人ホームでの実習、三月末には晴れて二級の資格をいただいた。

今までお年寄りには手を貸して、何でもやってあげるのが、親切と思っていたが、「手間暇かけて世話するのではなく、手間暇かけて力を付ける援助をするのが介護なのだ」と教えられ、目から鱗が落ちたようだった。

四月末から、早速、町登録ヘルパーとして、一人暮らしのお年寄りのお宅へ伺っている。その方はとても明るくて元気で趣味に生き甲斐を見つけておられ、まさに「明老」「快老」の実践者で、とても勉強になる。どこへ派遣されようと自分のいんねんある人のところだと思ってお世話取りをさせていただいている。

「貴方に会えて良かったと、利用者に言ってもらえるようつとめて下さい」と、養成所の所長さんがいつも言っておられたが、お年寄りに拘わらず「貴方に会えて良かった」と言ってもらえるようしつかり自分育てをしなければ。

「熟年夫婦」

平成13年5月号

月日の経つのは早いもので今年で結婚三十周年を迎える。私は修養科を終えてすぐに結婚をしたが、その時の教養掛の先生に「ふたりのここをおさめいよ なにかにこともあらわれる」と書かれた色紙をいただいた。

何もわからぬままの出発だったが、事ある度にお言葉を思い出し、やっと今日まで夫婦としてお連れ通りいただき、今やこのお言葉は私の座右の銘になっている。この言葉を知らなかったらもしかして今流行りの熟年離婚になっていたかも知れなかった。

ごく最近、私の親しかった夫婦が三組離婚した。日頃から夫婦仲が悪かった訳でもなく、誰もが「なぜ？」と疑いたくなるような別れ方だった。いづれも奥さんからの一方的な通告で、主人の方は原因が解らぬまま印を押している。原因というのもこれ又、今流行の奥さんの不倫だから始末が悪い。

誰もが何十年も夫婦をやっていると男女としての魅力もなくなりときめきも失せてくる。だからといって安易に他の人に心を奪われていいのだろうか。いつの日にも犠牲になるのは子どもたち。何よりの二人の宝物だった子どもたちも目に入らぬようになるのだろ

うか。

恋をすることは素晴らしいことだと思う。けどしてはいけない恋もある。生きて行く道中には心に何度も何度もブレーキをかけながら走らねばならないことがいっぱいある。

三組の夫婦は別れてしまった。そうなる前に相談にのってあげられなかった自分が悔しい。残されたご主人の心の傷が癒えるまで、心を込めさせていたきたいと思っている。

私たちも今までの年月をお互いに感謝しつつ、無くてはならない存在として添い遂げたいと思う。

「笑顔美人」

平成13年12月号

近所の奥さん方で、笑顔を一度も見ることがない人が数人います。どの家庭も、何不由なく暮らしておられるように見受けられるのですが、何故かいつも恐い顔をして挨拶もされません。ちよつとニコツとして下されば会話へとつながるのですが、とても近寄り難いのです。笑うことがそんなに難しいのでしょうか？お金もいらなければ、力もいらな

いの……。

つい先日、ある方が、「奥さんは本当に楽しそうに笑いますね。その顔を見るのが大好きです」と、言ってくださった。私はうれしくて、うれしくて……。と、言うのも、三年前にある先生に言われたひと言があったからです。

その先生曰く「あんたは、口許だけで笑つとるなあ。笑う時は、おでこから笑わなあかん」と。おでこから笑う？若い私には言われた言葉だけが不愉快で、いつも心の隅にひっかかっていた。その頃は、心配事も、悩み事もたくさんありました。笑うより怒ってる事の方が多かったのかも知れません。信仰を続けるうちに、何でも「自分が」と、思う心を少しずつ取って、神様にお凭れるようになってから、心から笑えるようになった気がします。また、周りの人々にたすけられ支えられて、今日があると喜ばせていただいています。有り難いと思うと、自然と笑みが洩れてきます。

あちこちへ行かせていただき「あんたの顔を見るとほっとする」と、言ってくださると、大きな力はないけれど、笑顔でいることが、私にできる一番身近で簡単なにおいがけかなと思います。

笑わない奥さんたちが、笑ってくれる日まで、私も懲りずに笑顔で挨拶を続けましょう。昔から、「男は度胸、女は愛嬌」って言いますものね。

「双六遊び」

平成14年6月号

世の中何から何までスピード時代。便利な物が出回っている現在だが、機械オンチの私としては充分に使いこなせないもどかしさ。

スピードと言えば今年の春は、例年になく暖かく桜の花も他の花々も我れ先にと咲いてしまった。季節までもがスピード化してしまったのだろうか。

あまりにも忙しく走り回っていた三月、四月。あつという間にかけて足で通り過ぎて行った。しかし、今年ほど桜の花を存分に味わい眺めた年もなかった。

毎日おたすけに通う病院への道中。どこもかしこも本当にきれいに咲いていた。病人さんに思いが伝わらずへこんでしまったの帰り道桜の花にどれだけなぐさめられたことか。又、ご機嫌の良い日は病院の庭のベンチに座りながらお花見をしたりもした。どうか、この花を来年もこの方と見れますようにと心で祈りながら……。

入院生活も長くなるとだんだんとわがままになつたり、自暴自棄になつたりする。こちらの方も「この人のごみ箱になろう。何でも聞かせていただこう。」と、心に決めたはずなのに顔を見るのも嫌になる日がある。「たんのうってむずかしいなあ。心のふしんって

こんなことを言うのだろうか。でもなかなかできないなあ。」と毎日反省しきりである。病んでいる人の気持ちにちよつとでも近づこうとすればするほど空回り。またふりだしに戻る。まるで双六に病院へ通っている心境だ。でも本当は私の来るのを毎日待っていてくれるのも知っている。機嫌をとり直して今日も好物のあんパンを持って出発しよう。

「やさしい心になりなされや。人をたすけなされや。」教祖の声が聞こえる。

「朝は元気よく」

平成15年2月号

ある寒い朝。自転車立ちこぎしながら走っている男の人を見ました。颯爽と乗っておられるから若い人かと思つてすれ違いざまにふと見ると七十代と思われる人だったのでビックリしました。週に二度ヘルパーとして、早朝のオムツ交換に訪問する道中の出来事でした。

五時起床、朝のおつとめ、息子のお弁当作り、七人分の洗濯、我が家のおばあちゃんのオムツ交換、食事作り、その他……。動きっぱなしでアツという間に三時間が経ってしまった。

うのです。八時までに訪問しなければとハアハア言いながら車を走らせていたのです。

その立ちこぎ老人と出会い、今まで朝の忙しさから、イライラしていた自分に、とても爽やかな風が吹き抜けたみたいで、言い知れぬ嬉しさを感じました。皆んな頑張つてこれから仕事や学校へ行くのだなあ。私も頑張らなくては……と。ほんの一瞬のことでしたが、元気な人を見て私も元気をもらったのです。

そんな嬉しい心が伝わったのか、訪問先のドアを開けるなり、「あんたの顔を見るとホッとするわ」と言ってくださり嬉しさが倍になりました。ヘルパー冥利に尽きる一言です。

一日の始まりの朝のあいさつ、笑顔、きびきびした動き、こんな大事なことを嬉しく感じることなく当たり前のようにやり過ごしていた自分がちよつと恥ずかしくなりました。

夜、この自転車おじさんのことを息子に話したら「そうやで、朝、皆んな仕事に行く姿を見てたら、自分も今日一日頑張ろうという気になるんや」と、同じことを言っていました。イヤイヤ仕事をしてもし一日なら楽しく過ごしても一日。

「健全な精神に、健全な肉体が宿る」といいますが、毎日を元気に働かせていただけることに感謝して「あのおばさんを見たら、朝から元気が出るわ」と、言われるように今年も頑張ろうと思います。

櫻井大教会会報「大和」ハートフルエッセー「木漏れ日の下で」掲載文

「あんこの味」

平成16年1月号

新しい餅つき機を買った。

一台で蒸して搗いてくれるすぐれものらしい。

私が子どもの頃、餅搗きは祖母と母の役割だった。朝早くから、餅米を蒸す匂いと蒸気が家中に立ち込め活気づいていた。石の付いた長い棒を母が踏むと石臼の中に杵が落ち、祖母が手を入れていた。

いつもは嫁姑の間で険悪な空気も流れる日もあったが、餅つきの日だけは、近所の話やら畑の話などをして仲良く会話が弾み、一手一つになっていたように思う。二人の息が合わないとなちまち怪我をしていただろう。

私と兄は、餡子（あんこ）を炊いたお鍋の底をスプーンでなめるのが一番の楽しみだった。祖母も心得ていてちよつと多めに餡子を残しておいてくれた。ちよつと焦げたところもあり、ほろ苦い味だったのに、どうしてあんなに美味しかったのだろう。搗きたての美

味いお餅を食べさせてもらったのに、その味はどうしても思い出せないから不思議だ。今思うと、私は餡子餅が食べられることよりも、いつも留守をしている母たちが一日家に居てくれることが何よりも嬉しかったんだと思う。

さて、我が家は、夫と二人でお餅を搗いた。いつものように私一人が吠えて、燃えて、指図して、あゝ……。

年末には、それぞれの家庭でいろんなお餅搗き風景が繰り広げられただろう。昔に比べて何でも機械化になり便利になったがそれと引き換えに失ったものも多い。

いつまでも夫婦仲良く、会話が弾む日々を送らせてもらいたいと願っている。



奈良教区報「こころ景色」掲載

「をびやゆるし」

平成15年1月号

二十年前の夏の暑い日、私は四人目の子を出産しました。

主人は、会社勤めを辞めて、社宅を引き払い、道一条を志し、教会へ住み込ませていた。だいて、三年経っていた頃で、今思えば一番苦勞のどん底でした。しかし、私たち夫婦はいつも教祖のひながたの万分の一でも通らせていただいていると心は勇み、何を見ても喜び、ほんのちよつとのお与えにも小躍りする毎日でした。

もちろん出産費用もなく、教祖からいただいた「をびやゆるし」だけを信じて、教会でお産婆さんに来ていただき無事に男児を出産させていただきました。

お道の信仰をされているお産婆さんは、「これが本当の半紙の上でもお産ができるの言葉通りのお産や。数多くのお産に立ち会ったがこんな素晴らしいお産は初めてや」と感動され、また、励ましてくださったのです。

何もなくても教祖だけを信じて、夫婦心を合わせての出産でしたが、その子の顔は、今まで産んだどの子よりも輝いて見え、ありがたくて身震いしたものです。また、その子の

出産費用は分割で一年かかって支払ったのもつい昨日のようです。

「をびやゆるし」を身をもって体験させていただいた喜びは二十年経った今でも少しも薄らぐことはありません。

先日、二十歳になったその子に成人式の案内状が届きました。末っ子で甘えん坊ですが、心優しい子に育ち、何度か命を亡くすところを教祖に救けていただき今日まで来ました。これからは、大人としての自覚を持ってたくましく成人してくれることを願っています。教祖は、いつも優しく私たちを見守ってくださいています。今日の喜びに感謝しています。

毎日ありがたいですね。

「節から芽が出る」

平成15年8月号

今春、大教会の創立記念祭も喜びのうちに無事に終わり、ほっとしたつもりはないのに、

一気に気が引き締まるようなことが起こりました。息子の交友関係に事情をお見せいただいたのです。

今までも何度となく心配をかけられっ放しで、その度に親として神様にお詫びもして、子どもとも何度もじっくり話し合い、何とか今日まで来たのでした。親にとって我が子は何をしようと無条件で可愛いものです。手のかかる子どもほど心をかけてしまうもので、人様から親バカと言われようが心の底から湧き上がる愛情は誰にも止めることは出来ません。

今回も毎日／＼何度となく家族で話し合いました。お陰様で事情も納まり、やっと笑えるようになった頃、教祖百二十年祭地方講習会が近くの教会で開催されることになり受講させていただきました。

お話の中で「人間も我が子は無条件で可愛いものだ。人間を創られた親神様も同じ思いで私たちをお育て戴き護っていてくださっている……。」

今まで幾度となく聞かせていただいているお話でした。ですが、節から芽を出そうと必死になっていた私には、本当にありがたく、乾いた砂が水を吸うように心に治まったのです。

私たちは、何度も身上や事情をお見せいただき、その度に倒れそうになる心や身体を教

祖はいつも／＼支えてくださっているんですね。幾日前に流した悲しみの涙じゃなく、今度はありがたくて嬉し涙を流しました。

百二十年祭三年千日の旬。やはり、今はたすけていただける旬なのですね。

にんけんもこ共かわいであるをがな

それをふもをてしやんしてくれ

十四号
34



病氣録

病氣になってから 自分の心覚えとして「病氣録」という
タイトルで2冊のノートに本人が書き残していました。

H17年2月頃より

・左側の乳房がだんだん大きくなり脹れてくる。まるで生理前の時のような感じ。

・いつまでたっても小さくならず熱ももって固く左腕も異様な感じ。

3月7日

憩の家 腹部外科診察 松末部長

目まいがするので耳鼻科も受診

3440円 1770円

3月10日

診察 エコー、レントゲン、細胞検査

3740円

3月24日

ガンだと言われないがあまり良くないと…。

4月3日

下市の用木会。皆と会うのがつらい。話を
していても笑えない。孤独…。

下市の奥さんにだけは本当の事をいう。聞
いてもらって少し落ち着く。やはり皆に知
れるのはまだいやだ。なんで私が選ばれた？

どうして？やりきれない。受け入れられな
い思いがふつふつ。

4月5日

MR検査。どの程度ガンが広がっているのか
見るらしい。頭のMRと違ってすごい迫力の
音でびっくり。初めて造影剤も点滴もした
が副作用なしでよかった。下を向いて両手
を上げてベッドに乳房のところだけ穴があ
いていた。

帰りに入院手続きの所へ行って早くして欲
しいと伝える。 11060円

4月6日

入院日連絡あり。12日。

4月8日

一人で来たのでショック!!しかし泣けな
い。入院手続きを済ませ帰宅。

もしや?と思っていたが痛みがあるので多
分違うと思っていたのに…。手遅れでは?
などと落ち込んでしまう。鬱のようになる。

26日真帆が帰っていたので家族揃ったとこ
ろで皆で話し合う。子供4人共理解してく
れて、今後の事も相談。いく分すつきりし
た感じ。末っ子の貴史が泣いて辛い。まだ
死なないよ。220円

入院日連絡あり。11日に変更

入院まで1ヶ月と4日。長かったが心落ち
着いていろいろと考える事もできたし、家
の中の気になっていた事をひとつひとつ片
付けてゆけて良かった。入院の準備。買物。
冬物の洗濯。自分の各布団の始末。押入れ
の片付けなど…。

主婦の仕事はきりがなくて、ヘルパーも新
聞もひとまず休止。利用者の人たちとの交
流も楽しくて気にはなるが、又、復帰でき
れば恩返ししようと思う。今まで力になり
励ましてあげた人々に今は励まされて、な
ぐさめられている。悲しいけど現実…。

左側のお乳が人の物のように何とも云えず
異様な感じ。又、チクチク痛む。早くなん
とか処理してほしい。桜の花も見れたし、
心残りはなく入院できる。

4月11日(月)

入院日。雨、くもり

10時30分着。56病棟 4515号室

午後2時より検査 肺活量、出血、採血、

レントゲン、心電図、5つあり。

看護師さんとの問診。

5時前に主治医の松末先生来られ、胸を見て思いの他大きくなっているのでびつくりされている。

やはり先に抗がん剤をうって小さくしてから手術になりそう。わかっていたけどショックは大きい。圭史、真帆たち親子を送っていく。主人6時帰宅。

担当医 松末先生(部長さんの息子)

担当看護師 斉藤さん。

東側の部屋で希望どおりの窓側で景色も良い。教祖殿が正面に見えて、青垣山の新緑

が美しい。春の山が笑っている。私が笑える日はまだまだ先になりそうだ。もう何もかももたれて頑張ろう。入浴。

4月12日(火)

床が変わったせいかわの口から寝てしまい、3時30分ころ起きて腰が痛くて痛くてなかなか続いて寝られなかった。今日より腎臓の検査のため尿を採る事になったのでよい気になるのかも。又朝方うつうつと眠れて良かった。

今日はいくもっている。同じ部屋の人の話を聞かせてもらう。

耳鼻科受診。鼻とくしゃみが出て困る。

7時40分先生が来られる。寿命の事を聞いてみた。検査してからしかわからないと云われた。そう答えるしかないのはわかって

いるのに。やっぱり絶対にたすかると誰かに云ってほしい。誰と話をしても涙が勝手に出てしまう。今まで泣く事なんてなかったのに。前向きに、いいように考えようと思ってるのに自分でも情けない。痛みが不安だ。

今泣いていたかと思うと朝食に出てきたかどうかパンおいしかった。何でも食べられるだけ幸せなのに。

8時25分部長先生来られる。大丈夫と云って下さりちょっとうれしい。雨が降ってきた。本部に参拝する人、病院へ勤める人などが歩いている。シート交換。移動図書館が来て花の本借りる。11年前の入院とずい分変わっていておどろく。

真帆が雨なので車で来てくれた。パン持ちで。外は寒い雨らしい。となりのベッドに

同じ乳がんの人来る。71歳、来週に手術するらしい。

午後なおがバラの花とおすしなど持って来てくれる。

しばらくして下市の奥さん来られおさづけしてもらう。

主人も来てくれて水仙の花と花びん持ってきてくれた。

今ごろ家の庭中の花が満開になっている事だろう。

痛み止め4時飲む。6時間あけないと次飲めないらしい。

事情部の男の宮迫先生が来られておさづけ取り次いでもらう。

明日10時エコーの検査で9時から絶食となる。入浴。

耳鼻科受診、尿畜。

4月13日（水）

10時まで絶食なのでがまん。

10時前に小西さんお見舞いにくてくれる。

びわと苺大福を持ってまもなく真帆来る。

10時になったのでエコー（腹部）に行く。

すぐく待ってやってもらったが身体にきつ

く当てすぎてとても痛くてしまいに笑えた。

絶食の後、昼食たべたけどあまりおいしく

なかった。

12時40分組織診で先生にベッドの上で採

られた。

こんなに痛いのなら死んだ方がましと思う

くらい痛くて泣いた。

血もすぐく出て今ガーゼ当てている。痛み

止め飲んで少しましになった。やはり抗がん

剤は金曜ぐらいかららしい。いよいよ治

療が始まる。なおが南さんよりの果物差入

れ持って来てくれた。家でも頑張っているらしい。先生が夕方来られてエコーの結果異常なしと云われほっとする。但し胆石があるらしい。ほんと私って固い？

・超音波検査

4月14日（木）

快晴。

夜は良く眠れて良かった。

今日初めて朝づとめに参拝した。午前7時

おつとめに出てと云われてチャンポンに出

させていただく。

つくづくありがたいなあと思わせていただ

いた。

昨日のテープの跡がかゆい。やはりかぶれ

た。

8時20分先生来られ、今日は外へ散歩許可

出る。

昼食に真帆、すみれ、なおがお寿司を持っ

て来院。

今日は新しい人も入り、また宮田さん退院

され部屋中とても賑やか。

四人でハイキングのように昼食をとり本部

参拝する。

昼からゆっくりしていたけど部屋が爆発す

るほどうるさくて…。70歳以上の人ばかり

で耳遠く声も大きい。

4時先生が来られて説明。主人が遅れて来

ない。10分待ってもらいやつと説明。一番

おそれていた炎症性のガンとわかりシヨッ

ク。あすからMAXで目いっぱい抗がん剤

投与との事。本に書いてあった通りの説明

でとても納得した。

まだ脳のMRと骨の検査あり。

通院治療となりそう。6月半ばまで。入浴。

4月15日（金）快晴

だんだん慣れてきたし昼寝ないので夜ゆっくり眠れた。

8時先生来られて今日から投与すると云われた。いよいよ闘病開始。

朝づとめ参拝。私の身体がMAXに耐えられ

るかどうか闘う気満々だけど。

10時40分ごろ圭史来院。第一声「まだ毛あ

るな」あの子らしい。

すぐ後に小西さんが来て、ゼリーやあなご

寿司を持ってきてくれた。

1時30分いよいよ抗がん剤。まず吐気止め

の点滴、それから注射でアドリアシンを打

つ。点滴でエンドキサン。全部で2時間ぐ

らい。すぐ後の尿はピンク色していた。ア

ドリアシンが出ている証拠らしい。

6時今のところ何の症状もない。この薬が私を助けてくれる。癌と闘ってくれる。信じて頑張ろう。少し熱っぽい。

・部長回診 ・体重測定

4月16日（土）晴れ

10時30分頃から4時までぐっすり寝れて良かった。

汗が出るほど熱っぽいがその他は吐き気もなく落ち着いていてうれしい。昨夜看護師の石田さんが吐くと思うとホルモンが出るので思わない方が良いとのアドバイスいただき、何も思わないようにしようと努めた。この薬が私を救ってくれる。助けてくれる。そう信じて薬を作って下さった人々、先生、看護師さん、家族、回りの人々に感謝して

過ごそう。昨日食べ納めのように思ってたけど過ぎて胃がもたれていたけど今日はスッキリもうお腹すいた。

4時の尿は紅茶の色をしていた。

8時30分先生来られる。7時30分採血

12時30分先生来られる。採血の結果、大きな動き（副作用）がないらしい。便が3日出ず辛い。

昼から真帆一家、なお来る。バラの花を持って来てくれた。

花を見ていると心が和む。

37度、熱があるので心なしかしんどい。

事情部の先生におさづけしてもらおう。採血。

本愛の中島先生。

・かしのかりものの自覚

・いんねんの自覚

・夫婦が第一

4月17日（日）晴れ

日差しがベッドに入って眩しい。病院の中の携帯は禁止だけど家族とメールのやりとり出きて、心もまぎれ便利だし助かっている。

やはり少し微熱ある。便秘のせいもあるのかも。

今日は月次祭。こんなお天気の日曜日。私は何も出来なくて申し訳ない。信者さんもびっくりされることだろうなア。

少し便出た。針の母と兄、圭史、貴史、真帆一家、全部来院。

胃の不快感が…。しんどい。

夕づとめ参拝したら夕席に筒井敬一先生のお話だった。

何でもどんな事が起こっても5分で喜びに切り替える。生の先生がまさかここで見え

るとはびっくり。参拝して良かった。入浴。

4月18日（月）晴れ

ついに来た。胃のムカムカ、何とも云えぬ不快感。

夕べから下剤も飲んでるのに便も4日出ず

朝から水のような物を吐く。

昼少しびわを食べたがとうとう吐いてしまった。

夕方から便4回出て少し楽になった。

しんどいから主人へtelして来てもらう。

6時から脳のMR検査、ひとりで帰れず迎えに来てもらう。

血の検査。

4月19日（火）晴れ

少しだが胃の感じがましになった。

真帆にアイスとフアンタを買って来てもらい半分食べられた。
便も2回出た。

昼から主人が来たのでちらし寿司食べたいと云って買ってもらい少しづつ食べた。

吐かなくて良かった。

夕方なお花を持って来てくれる。ガーベラ、ひまわり。

夕食はなおが食べて、残りのおすし食べる。大丈夫だ。

ピークは去ったみたい。

夜、先生来られ脳異常なしとの事。うれしい。

4月20日（水）雨

まほが早くから来てくれた。

たこ焼きが食べたい。前の店で買って来てくれて2個食べれた。

昨日より調子も良い。

本当に良かった。

入浴する。3日ぶり。鏡を見て乳房が少しへこんでいるのがわかった。よかった。薬が効いているんだと思う。

胃の検査、25日が明日になり金曜日退院できる。

小西さん1時頃来てくれる。みたらしと石楠花を持って。庭に咲いたのを切ってくれたらしい。とてもきれいだ。

夕方主人来てくれる。先生来られ白血球の数が少し減少しているので金曜日退院できないかも…。入浴、血の検査。

山が日に日に緑の色を濃くなり美しい。

4月21日（木）うすぐもり

毎日誰かが手術していく。外科病棟は回転

が早い。

今日も以前の私のように入院を待っている人がいるのだろう。

骨シンチグラフィの検査がある。

11時30分に注射 3時30分撮影。

どうか転移してませんように。

朝寝起きに昨日みたらし残り1本食べた。

この分なら今日も何とかいけそうだ。

石楠花が開いて美しい。

こんなに美しいとは思った事はない。庭の木を折ってきてくれた小西さんの気持ちにただ々感謝。

今日は下市の月次祭。何とも残念。ここに居るから気は楽だけど下市にいたらもっと苦しい気持ちだと思う。

10時ごろ事情部の女性先生来ておさづけして下さる。

いい旬なのできつとたすかるよと云って下さりうれしい。

五十美ちゃんも来てくれておさづけ取り次いでくれる。

3時ごろ検査に行く。戻ってきたら5時前。すぐく時間がかかった。

戻ると宮本さん来てくれて外来へきたよう。元気そう。5時30分主人来てくれた。

もう今日は来てくれないと思っていたのに。

11日～15日請求 63690円

事情部講師 小奥先生。

4月22日（金）晴れ

今日も気持ちの良い朝。どうか退院できますように。

朝づとめに参拝してチャンポン出させていただく。

昨日の小奥先生が当番だった。

上林先生も参拝されていた。

昼過ぎ先生から許可降りた。まだ白血球少ないが無理しての退院だそう。普通の生活しても良いが熱が38度出たら夜中でも救急車で病院へ戻らなければならないとの事。

又、昨日の骨シンチの結果異常なし。良かった。どこにも転移していなくて乳房のみのガンだそう。

本当に良かった。神様はきつと助けてくださる。

生検査の結果もホルモンが関与してないらしくて、抗がん剤のみで先生は云われた。

4時ごろ退院。真帆宅へ行き、その前にうどんが食べたくて得々うどんへ連れていってもらおう。久しぶりに熱いうどんとてもとてもおいしかった。真帆宅でもおすしやご

ちそうしてくれた。

何でもおいしく食べれてうれしい限り。

すみれやかれんと共に初めて泊めてもらう。

16日〜22日入院費 68960円

入院費合計 132650円

4月23〜24日(土、日)

23日1日のんびりゆっくり、24日も同じく。充分世話してもらいありがたううれしい。

24日6時主人迎えに来てくれた。

さつとで夕食。これ又おいしい。こわい病氣も忘れてしまう。

帰宅すると、満里子さんと美千子さんがお花をもつて来て下さっていた。うれしいなア。

やっぱり我家はいい。自分の布団はいい。

それぞれ留守の間は、一人ひとりが頑張っ

てくれてありがとう。感謝の気持ちでいっぱいだよ。

4月25日(月)

家でのんびり、ゆっくり。

少し疲れるけど又休めば動ける。

夕食作る。主人の冬物洗濯。

庭が草まみれ。

いろいろの花が咲いて見ていて飽きない。

いい天気。布団干してもらおう。

4月27日(水) 晴れ

初めての外来。10時30分予約が混んでいて

12時先に血の検査してその結果を見ての

診察となるらしい。人混みに出たらあかんに病院がすごい人混み。やはり白血球が少ないらしいけど何とかクリア。薬を1時

4月28日(木) 晴れ

9時30分教区で母親講座の会議。

1時間程で終了。江幡さんには本当の事を云っておく。

まほ宅で2時30分まで待機。

帰りモリの花やで花を買う。ジャスコ、キ

リン堂、又、又疲れた。

髪が抜け出した。ついに…。

抗がん剤15日目。

左奥下のあたり少し口内炎。

右乳房写真撮る。

4月29日(金) 晴れ

圭史と皆でライフへ買物。

髪が抜け出したので帽子を買いに。

出かける時はマスクと帽子で行けるけど暑い。

1枚3千円の商品券で買い、千円の2枚まほに買ってもらう。3枚の帽子これからよろしく。

杉下のおじさん亡くなり、夜皆帰る。

疲れて、疲れて、どうしようもない。

4月30日(土) 晴れ

毎日天気続きで毛布やいろいろ洗って片付けてうれしい。でも30℃暑すぎ？ない。

のんびり、ゆっくり。

小西さんの畑にあずきを植えてもらいに豆持っていく。ドーナツもらう。何かと気に

かけてもらってうれしい。

夜満月会のメンバー揃う。

小林さんおいしい竹の子又煮てきて下さる。

南さん竹の子下さる。皆ありがとう。

5月2日(月) 晴れ

今日は直緒の誕生日。

日ごろ頑張ってくれているので何か祝ってあげたい。

体調も良いのでシャルウィダンス？の映画を見て、近鉄へ行く。

かつらをかぶらず体調も良く出かけるのはもう数少ないと思うので。

ハンカチ2枚プレゼント用に買う。

自分にはベージュのスーツ買ってもらう。

髪後ろの方も抜けてきた。やはり気になる。

右手上がりにくい。右背中上部なぜか痛

い。

どこが痛くても今まで気にならなかったのに気になってしょうがない。

神様のご守護に改めて感謝感謝。

どこにも転移せず、利き腕の右ではなく左で。

抗がん剤の副作用もやわからかで。

何もかもがありがたい。いつまで生きれるなんてとても欲な考えたと思った。

今日も一日ありがとう。感謝の気持ちで通ろう。

明日はいよいよ下市の用木会。

少しこわいけど自然の成り行きで。

乳房の色がくろくて赤くて青かったが自然の色に近くなってきた、痛みもあまりなくなってきたうれしい。

5月4日(水) 晴れ

気持ち良い五月晴れが続く。

思わず病気をも忘れそうだ。

自力で教区の例会へ行く。佐代子さんも何となく病気の事わかってたらしく(病名は多分知らないと思う) 励ましてくれた。

髪をさわるとさわっただけごっそり抜けて半分をきった。

帽子も3枚買ったし、ウィッグも買ってカットしてもらったけど生まれて初めての経験なのでやはりつらい。

左脇の下にも大きなグリグリがある。

どうか早く小さくなって摘出してほしい。

来年の春には髪も生えて笑えるだろうか
体重は少しも落ちず最高潮に太っている。

56 Kg.

5月6日(金) 雨

2回目の抗がん剤。

11時30分採血

12時45分吐き気止め錠剤1粒のむ。

30分後、点滴30分、左手の平に注射すこ

く痛くて出血する。やはり白血球が少なく
て、今日は量を減らすとの事。

胃が重い。身体に違和感あり。乳房赤い。

あまり眠れなかった。9020円

うがいくすり 280円

5月7日(土) 雨

今日も雨。熱35度5分良かった。

何となく不安はあるが朝4時過ぎ起きて着
替えて毛整える。もう5分の1ぐらいしか
残っていない。

白かゆを炊いてもらい梅干と2杯食べる。

夕べより胃の感じ良い。

昨日処方してもらったうがい薬で寝る前に
したら口内炎が治った。すごい！乳房赤い。

5月10日(火) くもり

金、土、日と真帆たちが居てくれたのでゆっ
くりしていた。

ずっと昨日までしんどくて1日中寝ていた。
いくら寝ても寝れる。身体がだるがつてい
るのだろうか

ガンは治ってもらわないと困るが、今まで
何の異常もなかった部分までもが破壊され
る恐怖。まさに劇薬。

表現はむずかしいが薬を打つと、とにかく
体温調整しにくい。うすら寒い。熱もない
のに、胃の中がぐらぐらしている感じ。

今回は一度も吐かず何を食べても治ってく

れた。

やはり教会へ帰ってきてご守護いただい
てのかもしれない。

まほにガムテープで髪を抜いてもらいほと
んどなくなった。

それでよい寒い。又、毛がないと地肌が
直接まくらに当たっていたい。

そのうち慣れると思うけど貴重な経験をし
た。

今日は少し気分もすぐれて主人が家にいて
くれるので布団も干してもらいおかゆも炊
いてもらい食べて。たこやきもおいしかつ
た。

ドライブで近くの山々へも行った。寝てる
よりずっといい。

だけどしんどいなア。

前と一緒に便秘にもなった。少し乳房が小

さくなったような…。マイナス2Kg

5月13日(金) 晴れ

抗がん剤投与から1週間目の診察。

やっと体調もよくなって直緒に連れて行っ
てもらう。

今日は病院が空いていてびっくり。

白血球の数も増えていて3100らしい。先
生も太鼓判をおしてくれて注射しなくても
良かった。又、20日の診察もなしになっ
てうれしい。帰り真帆宅へ寄り高田廻りで帰
宅。疲れた。 250円

5月15日(日) 晴れ

金曜日から又、真帆たち来て賑やかにして
いる。

昨日、まほ、なお、かれん、すみれとおば

あちゃんの墓参りに行って来た。入院前に行った花が枯れずに新芽を出していてうれしかった。

今日は朝から弁当を作り小西さんへ届けた。いつも櫛を採って下さりありがたい。何かと家事をして疲れた。けど昼寝も夜もなかなか寝つけない。あんなに寝ていた私が。

足がだるくてだるくてどうしようもない。いただいたバラの花が美しい。今日も五月晴れ。

5月18日(水) くもり、雨

昨日は月次祭。皆の前で初めてかつらを着用した。皆何も云わないけどそれとなくわかつているみたい。

少しづつ前の方へずれてきて、地肌止め

がないのでしょうがない。そのうち慣れるだろう。

おもち(草餅)もついたし疲れもだいぶまし。今日は針へ一人で行ってきた。

母はかつらの事気づかぬのか何も云えない。私も何も云わず気づくまでだまっていよう。夕方帰り、夕食、もらってきたキャベツでロールキャベツ作る。

そんなに疲れなかって良かった。

皆んなの気遣いの中で生かされている。

5月21日(土) 晴れ

下市の月次祭

皆かつらわらないと云っていた。

親奥さんよりお仕込み受ける。

ガンは皮膚にできるものだから、つなぎをしかりするようにと。又、後継者の事とか。

5月27日(金)

三回目の抗がん剤の日。

白血球の数値低くて打てず 2600

すぐく意気込んで行ったのでガツカリ。

杉下宅で夕方主人が迎えに来てくれるまで待つ。

5月29日(日) 晴れ

青年会総会の日だけ教区の母親講座で38母屋へ行く。着付けも皆に頼んでおく。総会に行けないのは初めてだと思う。7人参加してくれた。直緒、貴史も行ってくれてやれやれ。

午前の部で失礼して、又、杉下宅で夜まで待つ。

午後3時頃から喉のあたり痛くて変? 大勢の人混みの中へ行ったから? それとも子供

5月22日(日) 雨、くもり

山林さんが引越してゆかれた。

仲良かったので淋しいなあ。

昨日泣いたので目がはれて変な顔。

しばらくの間立ち直っていたのに何だかへこんでしんどい。

まり子さんと久しぶりの今年に入って初めてかな? 食事に「ひもろぎ」へ行く。

の家でしんどかったから？夜 身体中が痛くて変？風邪かな。夜中何度もうがいしても喉痛いよ。

5月30日(月) 晴れ

しんどいけど皆それぞれ用で出かけた。やはり節々痛いしとてもしんどい。

又、三時頃より熱出てきた。38.4度。まさか？

熱出たら即入院？とにかく主人を待つ。6時前に帰宅したので病院へTelして車で入院グズズ積み込みパジャマのまま行く。

真帆や直緒に連絡して夕方の事で1時間15分程かかって着く。

圭史留守番。貴史長野行き。長距離なので心配かけるので連絡せず。

救急で入り、しばらくすると腹部外科の先生来られる。

白血球は安定しておりやはり風邪とのこと。薬もらい 明日診察あるらしいので杉下宅へ。又又世話になる。

天理に娘がいてくれて助かった。

夜熱下がらず汗いっぱい出てしんどい。あつい。

5月31日(火) はれ

熱も下がりやれやれ。まだ節々痛い。だるい。入院せずにすんでほんとうに良かった。

外来へまほとなおと3人で行く。

ベッドで休ませてもらい すぐ見てもらう。水本先生。

昨夜の白血球は6100えっ？！！！

安定しているし菌は関係ないとの事で一日様子見ましようと云われ、又又杉下泊まり。主人は支部長の旅行で能登へ。キャンセル

しなくて良かった。2500円(くすり費)

明日抗がん剤打ってもらいたい。

6月1日(水) くもり

天理は暑い。でも夕べは良く眠れた。

かれんのせきがひどくて病院へ。アレルギー性のせきらしい。

まほも子供の世話であれこれ忙しそう。

私まで割り込んでよけい世話かける。

昼から少しづつ楽になり食べ物の味もわかってきて良かった。

夕方帰宅。家はやつぱりいい。ほっとする。咳はでる。

6月2日(木) 雨

久しぶりの雨。ほんとに久しぶり。

夕べはゆっくり寝れた。汗いっぱいかく。熱35.7度。少し涼しい。外の人は暑いらしい。

6月3日(金)

圭史に乗せてもらい病院へ。

真帆と三人で診察。

白血球4400で打つ事になった。

主治医の先生だった。手首から下に打つにはその上で失敗した時もう後々治療に使えなくなるそう。

今日はあまり痛くなかった。

夜杉下へ泊めてもらう。

6月4日(土) はれ

朝からお茶漬け食べて教区へ。

11時30分頃 うしろに座っておられた大教会の奥様より声をかけていただき途中で退席する。

奥様におさづけ取り次いでいただく。ありがたい。

迎えに来てくれた杉下一家と参拝へ。

3時にごろ迎えに来てもらい我家へ。

今週は5日も天理だった。

夜ついに吐き気して強烈に吐いてしまった。
しんどい。

6月5日(日) くもり

朝から気分すぐれず。

夜もねてるのか おきてるのか

夜又吐いてしまう。入浴する。

6月6日(月) はれ

やはり気分すぐれず。

上林元輝先生のお葬式。

坂口の公子さんが見舞い来てくれる。

ねてもねてもねてでるい。

又、すいかもおいしくて、夜は何とか吐かずにのり切れた。

6月7日(火)

修理巡教で朝早くから行ってしまった。

味はなく、いつも風邪引いてるみたい。

何でもおいしく食べたい 便固く少量

6月8日(水)

朝まで寝れて良かった。

お腹痛くて痛くて便なかなか出ず

ついに又、吐いてしまい苦しい 何と今日は苦しいことか。

浣腸を買ってきてもらいやってみる。少しづつではあるが出た。

夕食少し味がわかるようになった。

長く苦しい1日だった。

便が出きつたら胃も調子戻るかな。

今日は無理言つて主人に1日居てもらつて良かった。

まだ胃が違和感。

6月9日(木) はれ

朝、茶粥を炊いてもらい2杯食べる。おいしい。

やはりまだ風邪のような感じで100%味わからず残念。

今日こそ、今日こそ。

少しづつトンネルを抜けたつある。

3Kg減った。

とても激しい昨日だった。

30日から熱が出て、病院へ2回行き、3日抗がん剤打ち、又副作用で苦しみ、よく頑張った私の身体。

でもつくづく抵抗力落ちたと思う。
身体だけは丈夫だったのに。
今は下痢気味。何回出ただろう？
夜ほたるを見に小路へ行った。3〜5匹くらい飛んでいた。

6月10日(金) くもり

やっと1週間が経って少し落ち着いて普通通食でも何とか食べれた。診察日だと思い込んで病院へ行ったら24日ですと言われガア!!

3回目の抗がん剤なので採血もないらしい。前回の時言つてよ。参拝できて良かった。買物して杉下宅で休けい。

6月16日(木) くもり

病気になるって三度目の月次祭。

身体がだるい。今日も一日寝ていた。
14日に教区へ、久しぶりに一人で運転して
行ったのが応えたらしい。

目の奥(右)が痛かったり喉の奥が痛かつ
たり風邪のような気がしていたけど一日寝
てたら治った。体力がとにかくない。

時々胃がぼう満感あり。心配。

6月24日(金)

予定の四回目の抗がん剤。白血球2000で
打てず残念。2週間も空けることになった。

7月8日(金)

白血球4600でMAXで打つ。

夜帰ると吐く。とにかく苦しい。

7月9日(土)

一日中ごろごろ。夜中12時、又吐く。

7月10日(日)

眠れなくてしんどい。桃、おすし、何とか
食べれる。

おしっこ色濃い。

気分悪い。

7月11日(月)

いつ夜でいつ昼か分らない程もうろうと
している。加えて一番体調の悪い時に一番
梅雨でむし暑くて最悪。桃とアイス、サイ
ダー、サクランボ食べてみたけど昼過ぎ激
しく吐いた。しんどいよー。

昼から何も食べず夜焼きおにぎり1ヶ食べ
る。

夜中何度もおきる。水分をとってないのに

割りとおしっこが出る。色濃い。気分悪い。

7月12日(火) 雨

少しましな気がする。朝おかゆ食べる。

少し先が見えてきたかな？

昼うどんとおにぎり、サクランボ食べる。

吐き気しない。

代わりに圭史食あたりでダウン。少し便
でる。尿濃い。

気分が少しましになった。ガスが出て出て。

7月13日(水) くもり

身体中がだるくしんどいが吐き気がなく
なったので少し楽な気がする。昨夜ソーメ
ン食べて胃がもたれてもたれて心配したけ
ど今朝はみたらし2本食べた。

昼 おけ常の出前でおすしと鍋焼きうどん、

圭史と二人で食べる。二人共だいぶ良くなっ
た。

昼床上げ 自力で布団干す。夕食カレー作
る。おいしい。

やっぱり胃は重い。弘子さんから手紙くる。
速達で気遣ってくれてうれしい。返事書く。

7月14日(木) くもり・はれ

夜なかなか寝れない。かといって昼も熟睡
できない。

つくづく体力のなさが情けない。

朝方強い雨が降ったらしいけど知らない程
よくねれた。

圭史も復活して仕事に行った。やれやれ…。
便が昨日から何度も出る。少しづつ。先月
のあの苦しみに比べたらましかな。でも
胃も腸もすっきり感がない。

乳房の下の方にあつた固いグリグリなくなつた気がする。

しこりはまだ大きいけど。

四回で終わつて何とか夏中に手術したい。

夕方相本さんちらしずし、大木さん桃持つて来てくれる。

ありがたいなア。

7月21日（木）はれ

酷暑の毎日。

今日は最高で37度らしい。

午前中下市の月次祭参拝 半下りで失礼して病院へ。

参拝をして、検査、エコーとレントゲン。

エコーの画面に以前あつた黒い大きな丸がどうしても見当たらない。断片的な黒い部分はあつたけど…。

レントゲンも放射線の医師の診察でだいぶ小さくなつてゐるらしい。うれしい。
29日先生にどう言われるかな。
2760 円

7月24日（日）くもり

昨夜花火大会があつた。

孫たちも帰り皆で花火を見る事ができた。

今年はいつになく豪華ですごかつた。

とてもとても暑くて夜も寝にくい。首にはあせも。口の中は口内炎。

でも少しも体重は落ちず食欲もあり、体力はないがなんとか過ごせてありがたい。

来年も皆揃つて花火を見れたらいいなア。

今夜は久しぶりに満月会で「猿石」へ食事に行く。

私の病氣以来ストップしていたので皆にも

悪いなア。

昨日は仔細にある「大乘寺」の境内に咲いている山ゆりを見に連れていつてもらつた。大好きな山ゆりきれいだった。

庭にも小西さんにもらつた百合の株を植えた。

来年も咲けばいいけど。

7月29日（金）はれ

とてもとても暑い。

ドキドキ結果をききに行く日だ。

本部参拝してから一人で血液検査に行く。

1時一番乗りで診察。

ガンは小さくなつてた。エコーでは7cmが2cm程に。

すごい。4回の抗がん剤耐えただけあつた。レントゲンの方はわかりにくく4cm程。

入院して手術を先にする事にした。
術後3回又、抗がん剤らしい。
でも胸にこわいものを持つてゐるより早く取つてしまいたい。

もう1回MRしてからという事らしい。

どうか1日でも早く手術ができますように。

白血球 2800 1630 円

8月11日（木）はれ

今日は胸のMRIの検査。

お昼絶食で2時30分～3時まで。

8月6日より風邪気味でなかなか治らず鼻が出て息苦しくて途中ボタン押そうかと思つたけどガマンした。11060 円

8月12日（金）くもり

いよいよ入院。

本部参拝して10時30分入院。
前と同じ56病棟で入口の4505号室。

窓側で教祖殿が正面に見れてうれしい。

主治医の先生が変わって久森先生。とても
やさしそうな先生。

部長回診があり西村先生と共に胸を見ても
らった。

3時ごろより心電図、出血時間、X線撮影、
採血、検尿、検便あり。

7時30分主治医の説明あるのでそれまで主
人は教区へ。

今回の部屋は4人部屋。早速皆さんと話
す。いごちよさそう。

8時久森先生の説明受ける。

なんだか恐くて緊張した。

説明を聞いているとこのガンは一生つき
合っていかなければならないらしい。でも

よく薬でここまで小さくなってくれたと思
う。

祈ってくれた人々にただただ感謝。家族に
感謝。

心の支えになってくれた友人たちに感謝。

神様は私をみすてられなかった。ありがた
い。手術は17日午後2時と決定。

8月13日(土) くもり

枕を持ってきたおかげがよくねむれた。

10時30分お腹痛くてトイレへ。ついでに検
便もできてよかった。

これでお腹のはりがとれてすっきり。

部屋の人にいびきかく言われて…。ごめん。

何もする事ないので外泊する事に。

下市の親奥さん来て下さりおさづけいた
だく。

小西さん来て桃、ぶどういただく。

佳子さん、光子姉さん来てくれる。

なおが来て4時ごろ帰宅。

同じ17日手術だそう。

8月16日(火) はれ

シーツ交換。

手術の担当看護師さんより説明あり。

金魚作ってのんびり。

30分伸びて2時30分かららしい。となりの

ベッドの○○さんが朝からで同じ久森先生
がオぺらしい。

2時下剤飲む。

杉下一家が徳島から戻って来てくれる。

下市の奥さん来られおさづけしていただく。

7時ごろ主人来てくれる。

下剤飲んで8時間後便2回出る。きつちり

看護師さんの言われた通り8時間後だった。

ねむかったのにねむれなくなってしまった。

クーラーが0時に切れても涼しかった。

朝方少しねむれた。

あきんどでお寿司たべて7時ごろ病院へ。
看護師の斉藤さんと会う。お母さんが○○
ガンだそうだ。
皆辛いなア。となりのベッドに入院されて
いた。

8月17日(水)はれ

気持ち良い朝だ。手術日和かな。

ねむっているのに浣腸で起こされた。夜中にトイレ行ってるのであまり出ない。午前中の○○さんだいが緊張されている。70歳だもの無理ないかな。少しかわいそう。すぐに後を私が追いかけるから。

針の母8時ごろ来てくれる。鍵田、上田姉妹も来てくれ、真帆と合わせて女四人。

12時安定剤を飲み、2時手術室へ。何にもこわくなくほんとうにもたれてのぞめた。

月次祭で教会で皆が真実こめて祈ってくれたのでうれしかった。又、いろいろの人々のお祈りのお陰で私は手術していただく事ができた。2時間丁度で部屋に戻ってきた。

とても早く手術していただけたらしい。真帆と母が先生の説明を聞いてくれて取った

乳房も見たらしい。

きれいにとれたと聞いてほっとした。家族もきつと同じらしい。

何度か吐いてしまった。特別苦しい訳でもなく、痛くてたまらない訳でもなくありがたかった。

真帆が泊りがけで付き添いしてくれた。何度も汗を拭いたり大変だったろうと思う。持つべきは娘。皆に心配してもらい世話してもらいとても私は幸せだと思う。術前に女の先生におさづけをいただく。鍵田のお姉さんにワコールのパジャマをいただく。とてもうれしい。

8月18日(木)はれ、くもり、雨

朝から半日真帆についてもらった。

喉からのチューブとおしっここの管も外して

もらいトイレへ行く。

歩いてもふらつかず先生も回りの人も皆びっくり。

レントゲン撮影も歩いて行き両手を上げた。午後から直緒がついてくれて、いろいろ買ってきてくれたりたすかった。

夕方リハビリへ。もう24時間後にリハビリなんて信じられない。

110度まで手を上げられて自分でもうそみたい。

でも無理せず少しづつ元の身体に戻そう。

手術後のおさづけ女の先生にしていたく。早い回復にびっくりされて共に喜んでいただいた。

足のエア外す。

8月19日(金)はれ

よくねむれてよかった。

母が朝早く来てくれて二人で朝ごはんを食べた。

9時40分リハビリに行く。昨日より少しづつ角度が上がった。

ほんとうに早い回復で久森先生もびっくりされている。

一番うれしかったのは小奥先生が来てくださった事。

ほんとうに共に喜んで下さり私も会えて良かった。

又、明日も来て来て下さるとの事。

午後光子姉さんがぶどうとみかんを持って来てくれる。

真帆と子どもたちもぶどうとみかん持って来てくれる。

なんかとてもにぎやかで落ち着かないし疲

れる。

でも皆んな心配してくれてありがとう。
手首の針抜く。靴下脱ぐ。マット外す。

8月20日(土) はれ

きのう雨が降ったせいかわやかな朝を迎えた。9時から1時ごろまで良くねむれたが後がなかなかねむれず困った。

5時20分ごろおきてぼんやり。ねがえりできず管が気になるしまだ痛いのでむりないかな。7Fへ参拝する。

下市の奥さん来て下さる。

傷の治りも順調ですとの事。

小奥先生おさづけ来て下さる。

夕方熱^{37.8}度出る。8時ごろよりねてしまう。

8月21日(日) くもり

6時25分までねむれて熱も下がった。

7Fへ朝づとめ行って帰って来たら大教会の奥さま来て下さりおさづけただく。

8時45分小西さんメロンとミスト持つて来て下さる。

今日は便も出て二人の先生も異常ないとの事でゆっくりしよう。

管から出ている液も180cc 130cc 100ccと順調に減ってきている。

針より二人来てお見舞いもらう。

杉下一家、貴史と彼女ケーキ持つてきてくれる。なおも。

8月22日(月) くもり

朝からとにかくしんどい。

診てもらってもどうもならないらしいけどしんどい。

リハビリ帰って来たら親奥さん来て下さる。皆さんに祈ってもらってありがたい。

入れ違いに主人来てくれる。昨日炊事当番ぶじ終わったらしい。私がいなくても皆一生懸命つとめて下さってうれしい。

昼から鍵田のお姉さん本とくつ下持つて来て下さり何度も申し訳ない(4回目)

午後より少し体調戻って来て夕食は何かと食べられた。

真帆に巻寿司持つて来てもらい食べる。

夜、トローチを処方してもらう。のどの痛みが少しやわらいだ。

12日〜15日迄の入院費 24680円

8月23日(火) 雨

手術して一週間が過ぎた。すべての事にも慣れてきた。

管を持つて移動する事、トイレで尿をためる事、7Fへの参拝。

検温少しづつ元気になって今までの恐怖や心配は何だったのかと思えるぐらい。先生に云わせれば「そんなにむずかしい手術じゃなかったですからね」…と。怪我して縫ってもらった程度の云われ方だよ。

ガンの検査の結果が出るのが少しこわい。管抜くのも抜糸も痛いやろなア。リハビリ昨日から5度角度上達。毎日少しづつ腕が上がってきていてありがたい。

夜中むし暑かったので汗びっしょり。朝方も汗びっしょり、お陰で身体すっきりした。お昼初めてエビフライおいしかった。

頭洗ってもらう。みさおちゃん来てくれて笑わせてくれる。

夕方久森先生来られてあす管抜いて木曜日

抜糸、抗がん剤Tも打ちと云われた。いつ退院してもいいらしい。元気だしベッド空きを待ってる人も大勢いるし、びっくり。

8月24日(水) くもり、はれ

10時ごろ大封先生に管(ドレーン)抜いてもらう。やはり痛かった。

でも動くのが楽になった。11時頃小西さん梅ぞののおまんじゅう持って来てくれた。昼から真帆たち親子3人来た所で前にもらったメロン切って皆で食べたけど、めっちゃおいしかった。

佳子さん又(3回目)来てくれる。遠いのにあるがたい。

管抜いて痛いのにリハビリ行つて、ついに150度まで上がった。すごい。すごすぎる。でも横へのばすのは痛い。

8月25日(木) くもり

台風が来ているようで風の音がすごい。また主人は燃えているやろうなア。今日はいよいよ抗がん剤の日だ。どう副作用がでるか。前のACのきついのに耐えられたんだからきつと乗り越えられると思うけど。

8時30分吐き止め飲む。

9時30分ごろからタキサンテール点滴する。11時過ぎにまほ来てくれる。

12時30分ごろ昼食。何の副作用もなくよかった。

1時前点滴終了。下榮の奥さん来て下さる。6Fの個室用のお風呂に入る。まほに背中流してもらう。9日ぶりの入浴すつとした。

リハビリ行き又、又記録更新してうれしい。48病棟へ乳房のシリコンを見に行く。

24???円は少し高いなア。

節ちゃんと明美ちゃんも来てくれた。久森

先生明日から休みでもう会えないかも、良く食べているから傷も治るし良い事だと云われた。一生付き合う病気だとも。きみまろのテープ来た。おもしろい。

8月26日(金)

今日は本部の月次祭。やかたの中で参拝させていただける。

やはり夜身体の傷の所あちこち痛い。又、ねる前にコーヒーを飲んだので朝方までねむれなかった。今朝も(T)の副作用これといってなくありがたい。少しほてりがあり微熱が出てきた。

まほたち来てすぐに針の母来る。南美都さんと鷺文さん、山錦さん、井村さんご夫婦、お姉さんそれぞれお見舞いに来て下さり申

し訳ない。

8月27日(土)

夕べはよくねむれた。針のトマトとうもろこし朝食に食べる。おいしい。心なしか傷跡痛い。

安世さんがお見舞いに来てくれる。昼ご飯食欲もなくなるくてねむい。少しづつ副作用出てきたのかな。昼からなお来てくれる。下市の奥さんと照ちゃん、興世のみっちゃん、辻田さん夫婦お見舞いに来てくれる。皆暑い中遠い所申し訳ない。早く元気になってお役に立って返してゆきたい。なおにおけ常の上寿司買ってきてもらい食べる。食欲も少しづつ落ちてきた。何より便秘がづらい。 請求書きた。

8月28日(日)はれ

よくねれた。やはり身体がだるい。

朝徳島より弘子さん来てくれた。その後美千子さん、佐代子さん、小林さん、谷さん夫婦、坂上さん、針の母と大勢見舞いに来てくれてうれしい。

夕食やつと半分食べた。やはり便秘苦しい。

8月29日(月)はれ

いよいよ今日退院。最後の朝づとめに参拝してお礼をいう。便秘なおきびしく身体だるく荷物を片付ける気力もない。

大木さんより花束とケーキ預かって来てくれた。うれしい。小西さんメロンなど果物を持って来てくれた。11時30分ごろ荷物まとめる。

12時先生の説明受ける。リンパ回りにまだ

ガンがある。やはりこわいガンだった。それで抗がん剤、放射線も受けなければなら

ないと聞いてショック！退院の喜びよりも後々の事を考えて一度に気持ちが沈んでしまった。こんな事本人に聞かせないでほしいよ。

不安に押しつぶされそうだよ。部屋の皆に送られて退院。12時40分。

本部参拝する。真帆宅へ。少しずつ便出してくる。お昼ごろになって針へ。母がベッド貸してくれていると氣遣ってくれた。

私は病気を克服して母に親孝行できるのだろうか。最後まで世話する事ができるかな。

又、又、病に倒れるのじゃないのかな。先生が云ってたように肺へ転移するかも…。

夜はねむいのにトイレへ6〜8回行って便がスッキリ出た。よかった。

271680円

8月30日(火)くもり、雨

とても涼しい。便も少し軟らかくなってこれはこれで困り物。

朝ご飯も昼ご飯もおいしく食べれた。久しぶりの手料理よばれた。

9月2日(金)はれ

暑くなった。12時に迎えに来てもらって病院へ。

西村先生不在で古山先生に抜糸。あまり痛くなかった。

白血球が1800ですごく少ないと云われる。普通の人の最低値3500の半分だと云われた。マスクをもらってつける。最初の頃は気をつけていたのにこの頃慣れてきて不用心になって反省。

前の部屋へ行くと〇〇さんしかいなかった。

少し話して帰る。

大教会の奥さまにも出会う。ご飯もおいしいのに何故かなア。 3250円

9月11日(日)

今日は選挙の日。棄権する。9月3日夕方から貴史きて泊まる。9月4日貴史に来てもらい杉下宅へ移動。本当に母には精一杯世話をしてもらった。明朝5日直緒に来てもらい診察。白血球2000少し上がった。

その夜直緒泊まる。真帆宅で少しずつ家事手伝うが身体がだるい。9日診察。2100少し上がる。そのまま帰宅。

帰ると居間の床が抜けて食器棚傾いていた。ショックでしんどくて寝苦しかった。明くる日少しずつ食器出して片付ける。貴史帰って来て主人と二人で片付けてくれた。

夕食作る。今日は身体しんどくて10時まで
ねていた。昼食作った時、岩井先生来て下
さりおさづけいたたく。松竹梅の特上らし
い。ありがたいなア。もう大丈夫と思っ
たのにやはり複雑な心境で泣けてくる。な
かなか強くなれないな。
ちよつとづつ家事してゆこう。明日は母が
草引きに来てくれる。

9月16日(金)

ひとりで診察に行く。初めての事だ。(病
気がわかって以来)
白血球4000。えっ、うそ、第2回抗がん
剤、2時間15分かかった。その足で針へ。
吉井薬局へ行き下剤もらう。何とか今日は
無事。下剤のお陰で即便秘解消。
びっくりしたのは会計。30650円 ひえ。

9月23日(金)

針で一週間世話になった。母は話相手が
なくなつて淋しいといっていた。「顔見
せるのも親孝行やで」のひと言で泣けそう
になり、車に乗つて帰る。道中心中複雑で母
の事思つたら涙が止まらなかった。帰つてさ
っそく食事作り。少しづつ家事をしてゆこう。

9月24日(土)

朝5時30分起床 久しぶりに子どもの弁当
作り、家事こなせる。
男子のおつとめ衣洗う。

10月7日(金)

3回目の抗がん剤の日。またひとりでゆく。
白血球3200しかなかったが打つてもらつ

た。今日はだるくてねむくてねむくて。2
時間かかった。その足で針へ。
下剤も飲んでいたので便苦しみなし。

30750円

10月8日(土)

まだ苦しくならないうちに針の用事を済ま
せる。買物に行ったり、そうじをしたり。

やはり3日目ぐらいから胃の調子、腸の調
子悪い。食べ物の味が全くせず舌が真っ白。

10月11日

昨日、杣之川のおばちゃんお見舞いに来て
くれた。

どこにいてもしんどいのは同じなので家へ
帰る事にする。

枕が変わるとねにくいし、帰りにヨシムラ
で買物して。順調。

10月15日

やっと1週間経つて身体もだいぶまだ。
この頃雨が多くて、今日は久しぶりにゆつ
くり、手芸をして過ごす。舌もだんだん赤
くなつてきた。

手術のあとは少しも痛くないし、布団も干
せるし重い物ももてるしもっと不自由にな
ると思つていたのでうれしくありがたい。

人の何倍ものご守護を受けているのだと実
感する。

10月28日

最後4回目の点滴。白血球5600すごい。ケー
ルのお陰かな。2時間10分かかった。その

足で針へ。 30260 円

11月4日

今日は1週間目の診察。胃のもたれ、薬くささ、味がすべてしづく、にがい、水だけでもおいしかったらしいのに……。ぜいたくな

普通に家事ができて、ご飯もたべて、車にも乗れて。

肩がこってしんどい。やっぱり白血球1600今までで最低の数値。しばらく腹部外科ともお別れ。次回は12月2日、西村先生は「来てもいいけど何もサービスできないよ」と云われた。その足で地下の放射線科へ。中島先生が詳しく説明して下さる。予約して次回11月11日 CTをとって11月15日からいよいよ開始。年内には終わるらしい。やつ

とやつともうすぐ。ここまで通らせて下さった神様に感謝。陰ながら祈って下さった教友、友だち、家族、皆に感謝。そして何よりここまで頑張った自分。ちよつとだけほめてあげたい気分。
ここまでいくついろなものを越えてきたかな。さみしい時もあつたし、泣いた事もあつたし、せつなかったり、でもいつも喜べてた。お乳はなくてもある方がいっぱいだったから。
いい人に恵まれ、元気な体に恵まれ、いくら感謝してもしきれない。 2150 円

11月11日

放射線の診察とマーキング。若い三人の技師により上半身裸で書いてもらう。なんだか情けないしみじめだしちよつと涙がでた。

その後CTかなり時間がかかってぐったり疲れた。

11月14日

念願だったみたらい溪谷へ行く。かなり急な登りでしんどかったが丁度見ごろの紅葉でそれはきれいだった。

11月15日

今日から放射線始まり。ところが白血球1600から上がらず無理との事。がつくりきた。又、又、マーキングしてもらい帰る。とてもとても疲れた。18日からすることに決定。 220 円

11月18日

今日は白血球は4600、やったー！初放射線。すぐく緊張した。体中が固まった。すぐ終

わるはずが1時間待たされ、となりの公園へ行ったり、パンやお茶したりすぐすぐく寒くて杉下へ帰った時は真つ暗になっていた。
疲れたなア。 15190 円

11月19日

今日はあつとゆう間に終わり5分程。帰り、ジャスコ、近鉄で買物。やつとかばん買う。 4870 円

11月21日

午前中下市の月次祭に参拝。
12時30分発。4、5人待ちで放射線。すぐ終わる。

とてもとても良いお天気。参拝して帰る。でもすぐくだるくてしんどくて疲れる。後

23回大丈夫かな？
4870円

12月9日

今日で16回が終わった。
通院も慣れてきたが日によってしんどい日もある。

11月23日には直緒と京都の嵐山へ紅葉を見に行った。

なんとか元気でなんとか皆に迷惑かけずに普通に暮らしたいから少しぐらいしんどくてもがまんしよう。

CTの結果も腫瘍マーカーも異常なし。うれしい。

毎日1回 4870円 高いなア。

12月19日

今日は22回目。一度も休まず順調に通えてありがたい。今年の12月はとても寒くて雪ばかり降ってとても寒くて不安定。明日は凍って行けるかなアと心配ばかりしている。後3回何とか行かせて下さい。杉下へ泊まろうかと荷物作った。

12月21日

下市祭典後病院へ。杉下へ泊まる。

22日今日は最終日。朝から吹雪ですごく寒い。JRで病院へ。やっと終わった。放射線の診察も2月24日。帰りはタクシーで櫛本まで帰る。

12月25日

今日はクリスマス。今までにない良い天気。子供たちと針と11人で私の治療終了祝いを

する。

お鍋とおすしで圭史のバースデーでもあり、にぎやかに楽しかった。

今日の日を迎える事ができたのは皆のお陰、ずい分と心配もかけたし、世話してもらった。感謝感謝。

少し傷跡痛いときがある。冷えるせいかな。放射線のあとかゆい。

平成18年

4月4日

夜胸のあたりが赤くなり固くなっているのに気づく。

何故、突然…。

4月5日

たまたま水曜日だったので西村先生の診察を受ける。 2650円

4月6日

腫瘍の検査で手術をする。

麻酔が死ぬほど痛くてこわくてガチガチにふるえた。

メスで切って取り去る。4針縫う。

腫瘍マーカーの検査。

17140円

4月7日

エコーの検査。2日続けて食事抜き。
3日間病院へ通う事になった。

前から念願の仏隆寺の桜や明日香の石舞台
やら見に寄ってくれたが心の中は真つ暗で
とても寒い。

一年経ってやっと元気になったと日々喜ん
でいたのに。

どうしてこんなに早く再発するの？

1590円

4月14日

やはり再発との結果。やはり…。

抗がん剤タキソールを4回打つ。後飲み薬。
考えようとしなくても不安。 220円

4月21日

午前中下市のおつとめ。2時に血液検査。
圭史に連れてきてもらう。

2時30分ごろ化学療法室へ。テレビも付い
てリモコン式のいすで前よりずっと良く
なった。4時ごろ終わったが頭がふらふら
する。

さつそく血圧やら脈やら。とても脈が速い
らしい。90が134ぐらい。血圧も上90下50ひ
くい。

アルコールが入っているので酔ったみたい
な状態。

主人も来て心電図もととり、調子悪く腹部外
科へ、車いすで連れていかれる。西村先生
の診察受けて一晩泊まりなさいと云われた
が、2時間程休んで針へ帰る。

着くなりねてしまう。頭がボーとしてわけ

がわからない。

吐き止め処方

42200円

4月22日

針で目覚めたが午前中はまだふらーとして
いる。

4月23日

なおや杉下一家が来たが足が痛くて立って
られない。

とても痛い。

4月24日

痛い。昼ごはん食べると同時に上へ下へ戻
す。最悪だよ。

4月25日

少しだけ落ち着く。

4月26日

少しでも歩こうと思う。痛みがまし。
口内炎できる。手と足の裏しびれている。

4月27日

午前に迎えに来て下市へ帰る。

母が淋しがりすぐに帰ったのでくやしさが
ら泣いてしまった。

つくづく親不孝だよ。

4月28日

午前中、支部の母親講座

午後、診察。白血球 2300 「じつとしてい
る事」と西村先生。

連休前でえらい混んだ。5時終了。抗生

物質処方。

950 円

4月29日～5月3日

少しづつ体力もついてきて家事をする。
冬物の片付け。庭の草引き。することいっぱい。普通の体力でもしんどい。
足の底はしびれている。良かったところもほとんどこわれてゆく。何ともこわい。
胸も少し体を動かすと痛い。
身体が元に戻ろうと求めるのか、昨年と同じ甘い物などが食べたい。
53.5Kgまで減ったがすぐ元に戻った。

5月5日～

2週間ぐらいしてから髪が抜け出した。
8日ぐらいからバサバサ抜けた。

5月12日

11時30分病院で血の検査、1時診察。
2時からスタート、4時ごろ終わったが前より薬の量減らされた。
でも眠くて眠くてフラフラ、トイレも歩いているでもフラフラ。
何とか車で針まで。何とも眠い。完全に酔っぱらいの症状。
すぐ寝て、夕食食べて又、寝て。夜中何度か目が覚めて5時過ぎに目覚めた。あれだけねたのだから無理はない。
今朝はフラフラしていない。やはり薬の量減ったからかな。
今日は雨。昼からなおが来る。
36770 円

5月14日

一晩中下痢でねられなかった。
朝、胸が赤く腫れている。何故？
夕方からひざから下がだる痛くなってきた。

5月15日

いつまでも肌寒い。足痛い。頭痛い。歯ぐきから血が出る。
いろんな副作用がぞくぞく。3日目。
毛がすっかり抜けて地肌がかゆい。
尿が出るようになり、少しむくみもとれた。
目の下白い。

5月16日

下痢気味。母に足マッサージしてもらう。
午前中ゆっくりねて、昼食も部屋食。甘えている。

5月18日

食欲も少しでてくる。おやつも食べられるようになった。
くもり、少し雨。肌寒い。明日は月次祭。皆んなに申し訳ないなア。
1回目よりは足の痛み少ないけど。

足の痛みまし。胸の赤みきつくなった。
時々痛みあり。天気悪くうつつらしい。
食欲あり。昨日も下痢。明日診察。レントゲン撮影。
少しこわい。

5月19日

自分の布団でねたせいかぐっすり眠れた。
花をさわったり洗濯したり、買物、食事の支度。

足がだるくて肩が痛くてつかれたよー。
700円

5月22日

夜中目が覚めて眠れず。朝方、幻覚か夢か
気持悪い。

6時起床でお弁当作り、庭の手入れ、洗濯。
久しぶりにフルコース。体が動いてうれし
い。

5月27日

昨日は本部月次祭、主人と二人で参拝。
家事は何とかこなせている。

胸のしこりとれず、はれて痛い。
二人でおさづけ後「御供さん」をいただい
ている。

その紙を胸にはった。少し痛みとれた。あ

りがたい。

雨の前とか、雨の日はドレーンの後が痛む。

6月4日

教区の母親講座も無事に終えてやれやれ。

6月7日

第3回目の抗がん剤。白血球5400、すごい。
今までで最高。

でも痛みひどくはれも広がり色もすごくて
不安。

やはり2時より4時45分までかかって、ア
ルコールがよく効いてねむい。

針へ帰ってから眠い。

36980円

6月8日

朝、何だか胸の色が薄くなった感じがした
けど又、濃くなってきた。何故？目の錯覚
かな。

不自由。

今日は4回目の抗がん剤のはずだったが飲
み薬に切り替わった。ゼロータ300錠とい
うらしい。 6660円

6月14日

一週間経ってやっと食欲も出て味もわかり
やすくなってきた。又、3日便秘。

足の痛みは今日はまし。でも足が踏ん張れ
ないし、長い間立ってられない。

明日は帰宅するつもり。胸の激しい痛みは
少しまし。

7月3日

下市の用木会終わってから針へ。これといっ
て副作用なし。こわごわの毎日。でも体が
だるくて何もできず8日までゆっくりさせ
てもらう。

7月14日

診察。又、1週間分の薬もらって帰る。

4560円

6月30日

ガンは小さくならず痛みもあり不安。
副作用のみ出て、ガンに効いてないのか、
足の筋が痛いし、腰も痛い。歩きにくく、
動きにくく、下の物をかがんで取れないし

7月21日

3週間、薬を朝晩2錠ずつ飲み、今晚終了。

1週間間を空けて、休むらしい。

足、腰の痛みとれてきつつあり歩きやすく寝返りもできにくかったが少しづつましになった。

この薬の副作用は筋肉痛はないらしい。

この病気になるっていろいろの薬の副作用に悩まされた。

あんなに元気だった身体が自分で思うように動けない、辛いけど…、悲しいけど…。慣れた。

胸のしこりは鉄板のように固く盛り上がって赤く、少しも小さくならず、だんだん首の上の方へと広がってくる。治らなくていいからこれ以上広がらずにいてほしい。

直緒と二人で7月18日淡路島へ日帰り旅行に行ってきた。吉野ストアで当たったから

…。

今年の梅雨は激しく雨降って被害もすごい。18日は運良くくもり、小降りで良かった。

元気な間に行ける所へ行っておこう。

7月25日

骨シンチの検査

15020 円

7月28日

血は正常らしい。

診察で骨に異常あるらしい。ショック！

くるべきものが来た！って感じ。

転移というおそろしいものだ。

足が痛かった原因は骨盤にできたガン。

脊髄にも2ヶ所、首のあたり、鎖骨。方々にいっぱい。

一人で行ったから帰り道、苦しくて、しんどくて、辛くて、悲しかった。
もう全身に広がって治らず死んでゆくのかな。

この世に生きる

喜びの一つは

人間の

純粋な心にふれる

ことである

以上で、2冊に書かれた「病氣録」は終わっている。

4月から、教会の隣の公園に、町内の会館を建設中。連日工事車両の出入りで騒がしく、避難と避暑を兼ねて8月はじめから実家へ。このノートは持参していなかった。

8月28日、静養中の実家から救急車で憩の家へ。そのまま入院となった。

9月26日、ご本部祭典日の午後に出直す。

水本典子プロフィール

昭和26年12月21日	奈良県山辺郡都祁村針八一四番地（現・奈良市針）で出生
昭和39年3月	父・亀谷捨藏 母・光子の長女として（兄・善信氏と二人兄妹）
昭和42年3月	都祁（つげ）小学校卒業
昭和43年3月	都介野（つげの）中学校卒業
昭和45年3月22日	奈良県立職業訓練校 洋裁科卒業
昭和45年8月31日	おさづけの理拝戴
昭和44年4月	普通自動車運転免許証取得（平成23年1月21日まで有効）
昭和46年6月27日	天理市田井庄町 大和縫工株式会社に勤務
昭和46年7月11日	修養科第三六〇期修了
	水本治男と結婚
	奈良市高畑町破石六六〇一で新生活

昭和47年5月28日	長女真帆（まほ）出産（奈良市・浦部助産院で）
昭和49年12月25日	長男圭史（よしふみ）出産（奈良市・浦部助産院で）
昭和51年4月	京都府舞鶴市へ転入
昭和52年10月	大阪府寝屋川市へ転入
昭和53年4月8日	教人登録
昭和54年1月	下市町へ転入
昭和54年5月2日	次女直緒（なお）出産（下市町・風川医院で）
昭和55年2月	天理教婦人会新興委員部長拝命
昭和57年8月14日	次男貴史（たかふみ）出産（下市町・自宅で）
平成2年5月18日	下市小学校臨時給食調理員になる（平成3年3月31日まで）
平成12年3月28日	ホームヘルパー2級資格獲得
平成12年4月1日	下市町ホームヘルパー登録（平成17年3月31日まで）
平成16年6月1日	天理教婦人会奈良教区西吉野支部主任拝命
平成18年9月26日	出直す

平成十九年九月九日発行

編集者 水 本 治 男

発行者 水 本 治 男

発行所 奈良県吉野郡下市町下市八八二番地の六

天理教新興分教会

印刷者 天理市稲葉町八〇

天理時報社

